

SHUNKEN 2008-04 36-01

駿建

2008年新学期号

Vol.36 No.1

日本大学工学部建築学科

日本大学短期大学部建設学科

大学の評価は卒業生の実力

早期に専門職意識の向上を

井上勝夫

日本私立大学連盟からの提言や中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像」などを受けて、我が理工学部でも教育内容や教育方法の改善に関する集中討議が行われ、平成18年7月に具体的なカリキュラム改訂の基本方針が示された。そして、カリキュラム編成要綱が平成18年11月の教授会で承認され、平成19年度には具体的なカリキュラム改訂が行われ、本年度（平成20年度）から新カリキュラムがスタートする。高等教育の改善方策の骨子は「入学時における初期教育課程の再編」と「卒業時における質の社会への保証」にある。また、それらを実現させる方策として「学生の達成度評価方法の確立」や「教員の意識改革の必要性：FD活動」、「第三者評価」などが挙げられている。

学生の履修歴や学力の多様化問題に直面している事実は教員各位が認めていることであるが、入試による選抜方法に学力考査を伴わない「推薦入試」や「AO入試」は、やむを得ず継続されており、その格差を入り口において是正する措置は取られていない。また、高校3年生の時期に将来の進路を決定しなければならないとする事実も入学学生の専門分野に対するモチベーションの低下に繋がっている。このような状況における対応策として本学部の新カリキュラムでは、教養教育科目の内容再編・学年配置の再構成、専門分野に対するインセンティブ教育科目の新たな導入、スタディースキルズ科目の設置などが行われている。新入生が入学後一日も早く自分の将来について真剣に考え、専門分野に対してやる気や自信を持ち、学習意欲を高揚させてくれることを願うものである。周知のように建築学は分野が広く「芸術系」と「工学系」が混在する特徴を有する独特の学問で、当建築学科では「設計・計画コース」、「企画経営コース」、「環境・構造コース」の3つのコースを用意しているので、全職域を理解し自分にあった分野を早急を選択することを期待したい。

大学は高度な専門教育を現実即して展開し、社会に輩出する時点で「質」を保証する体制を構築しておかねばならない。前出の私立大学連盟でも、アメリカ合衆国のGRE（共通適性試験）に類した試験の導入の必要性やグローバル・スタンダードを視野に入れたミニマム・リ

クアイアメントの設定、卒業定員の設定などを提言している。卒業時の学生の質の確保は、本来の大学教育の目的とするところであり、入学時の偏差値よりも卒業時の実力の方が重要であることは言うまでもない。理工学部では今回のカリキュラム改正に伴って、各学科が定めた教育目標および学科独自の特色ある教育内容を間違いなく達成したかどうかをチェックする「卒業達成度評価科目」を導入設置した。今後、行われる具体的な達成度評価・判断が注目される。建築学科では客観的な到達点（ミニマム・リクアイアメント）を「一級建築士合格レベル」に置いている。よって当面、到達度チェックは一級建築士レベルの模擬試験の導入・実施などが挙げられると思われるが、同時に当学科独自の特色ある教育内容に関する到達度をどう評価するかという点が問題として挙げられる。学科独自の教育の特色とは、日本大学理工学部建築学科であるが故の教育内容であり、現大学執行部で示されている「金平糖の角」に相当する教育内容である。私学の場合、この角の形や長さ・大きさが重要な意味を持つものであり、大学の価値・評価を決定付ける重要な要素であると考えている。学会や社会から当学科が高く評価されてる専門分野を認識し、その分野を一層充実させるとともに、対外的なPRの旗印として社会的に働きかける必要がある。

「学科の特色ある教育」を具体化している主要科目として「卒業研究」が挙げられる。卒業研究は、学生が独自に設定したテーマを教員のアドバイスを受けながら自ら研究し纏めていく方法と、各教員の学会や社会的活動から必要かつ重要な研究として掲げたテーマを学生が選択して研究し纏める場合がある。後者の方法は大学が各教員の能力や研究実績、対外的活動実績を最大限利用している理想的な形とも評価でき、教育範囲を大きく拡大する源になっている。この教育方法は、さらに大学院教育にも及ぶものであるから、各教員の対外的活動・活躍の場をさらに奨励・拡大すべきである。

(いのうえかつお・建築教室主任・教授)

平成20年度 建築学科 履修要項

履修に関する一般事項

履修要覧 建築学科を卒業するために必要な条件は、入学時に渡された「学部要覧」に収められた履修要覧、および「建築学科履修の手引き」に詳しく記載されている。これは大学と諸君との間の、教育に関する“契約”が述べられている重要文書であるため、卒業まで大事に取り

平成20年度 クラス担任

学部

学年	クラス担任		研究室(駿河台5号館)
1年	専門	山崎 誠子 (設計・計画)	587A室 567B室
		田嶋 和樹 (環境・構造)	
2年	1組	古橋 剛 (環境・構造)	564B室 594B室 584A室 578A室
	〃	川島 和彦 (企画経営)	
	2組	宇杉 和夫 (設計・計画)	
	〃	蜂巣 浩生 (環境・構造)	
3年	1組	中田 善久 (環境・構造)	566A室 585A室 595A室 588B室
	〃	八藤後 猛 (設計・計画)	
	2組	根上 彰生 (企画経営)	
	〃	山中新太郎 (設計・計画)	
4年	1組	渡辺 富雄 (設計・計画)	585B室 579A室 588A室 565B室 589B室
	〃	富田 隆太 (環境・構造)	
	2組	佐藤 光彦 (設計・計画)	
	〃	山田 雅一 (環境・構造)	
	再修生	今村 雅樹 (設計・計画)	

大学院理工学研究科建築学専攻博士前期課程

1年	大川 三雄 (設計・計画)	576A室
2年	安達 俊夫 (環境・構造)	565A室

大学院理工学研究科不動産科学専攻博士前期課程

1年	宇於崎勝也	595B室
2年	横内 憲久	597A室

平成20年度 委員会他担当

就職指導	大川 三雄	576A室
公務員対策	宇於崎勝也	595B室
学芸員	重枝 豊	575A室
学生相談室相談員	橋本 修	578B室
	古橋 剛	564B室
NU建築フォーラム	今村 雅樹	589B室
建築教室事務室	栗原のり子	543室
	矢萩有美子	
設計講師室	長谷川洋平	553室
	梅田 綾	

扱い、年度初めには必ず読み直すべきものである。これら履修に関する諸規定は、諸君が卒業するまで変更することなく適用される。なお、本年度の2年次編入生には平成19年度の、また3年次編入生には平成18年度の履修規定が適用される。

これらの履修規定はカリキュラムの変更にともなって改訂されることがある。1年次生は平成20年度改正のカリキュラム(以下、「H20カリキュラム」)、2～6年次生は平成15年度改正のカリキュラム(以下、「H15カリキュラム」)、7～8年次生はそれ以前のカリキュラムによる。7年次以上の学生が1～4年次設置科目を受講する場合、および2年次以上の学生が1年次設置科目を受講する場合は、ガイダンス時に配布される**新旧科目振替表**(時間割の裏面参照)によってよく確認の上、受講計画を立てることが必要である。なお、入学時の履修規定に掲載されていない新規科目は受講できないことに注意してほしい。

相互履修および単位互換制度 日本大学相互履修制度は、所定の手続きを経て各学部の指定する講義を相互に履修できるようにしたもので、合格すれば単位が修得できる。受講可能学科科目、申請手続きなどはガイダンス時にクラス担任から説明がある。建築学科では、このようにして修得した単位を「卒業に必要な単位」には算入しないが、高学年で時間に余裕があれば、芸術、生産工、経済学部などの講義を受講して知識を広めるとよい。**単位互換制度**は、理工学部と短期大学部間で、それぞれ指定された講義を相互に履修できるようにしたものである。上の相互履修制度を短期大学部にまで広げたものと考えればよい。詳細情報は教務課またはクラス担任から伝えられる。

他学科設置科目の受講 2年次生は40単位以上、3年次生は85単位以上、4年次生は125単位以上を修得し、受講計画に余裕があって、クラス担任から必要と認められた場合、受講科目担当教員の許可を得て、建築学科以外の学科に設置された基礎教育および専門教育科目を受講することができる。詳しくは「学部要覧」を参照されたい。**受講届** 毎年新学期の受講計画は、指定された期限までに受講届を提出し、教務課に登録されたことを確認しなければならない。登録していない科目の試験を受けて合

格しても単位は認められない。届出・確認の手続きは必ず自分の責任において行い、控えをとっておくこと。

教職課程・学芸員課程の受講 中学校および高等学校の教員免許または学芸員資格を取得希望の者は、それぞれの課程科目を受講することができる。履修条件その他の詳細は、「学部要覧」を参照されたい。

GPA 制度 (Grade Point Average) 平成17年度入学生より日本大学として統一の成績評価システム (GPA 制度) が導入された。これは授業内容の向上や成績評価の統一化などを目的としたもので、不合格科目や履修登録後の未履修科目の成績も考慮されることが特徴である。詳細は、1年次のガイダンス時にクラス担任から説明がある。

サブメジャー制度 サブメジャー (副専攻) 制度が平成20年度入学生より適用され、他学科に設置された科目群の中から16単位を修得することで、建築学科の学位とは別に、特定分野の学習成果を理工学部が認証する。修了者には修了証書が授与される。詳しくは「学部要覧」を参照されたい。

早期卒業 本学部にて3年以上在学し、卒業の条件として定める単位を優秀な成績で修得したと認められる者で、日本大学大学院理工学研究科に進学する者を対象とする制度で、平成20年度入学生より適用される。早期卒業者でも通常の卒業者と同様に建築学科の学位を取得でき、一級建築士の受験資格も得ることができるが、認定されるためにはさまざまな条件が設定されている。詳細は「学部要覧」を参照するとともにクラス担任に相談されたい。

1年次生

履修要項と学科の概要について

1年次生は、ガイダンスの時に配布される「平成20年度 (2008) 学部要覧」に示された履修要覧に従って卒業まで学修する。この「学部要覧」には、履修規定、履修方法のほかに、各年次別の授業科目、単位、履修順序、受講手続きの方法、受講計画上の注意、教職課程の履修方法および学生生活に関する情報が掲載されているので、卒業まで大事に保管し、よく検討して学修計画を立てること。また各授業科目の内容は、「学部要覧」の科目概要およびガイダンス時に配布される授業計画 (シラバス CD-ROM) で知ることができる。

建築学科の概要や教育目標、学修方法、コース (環境・構造コース、設計・計画コース、企画経営コース) の選択、その他については、ガイダンス当日に教室主任およびクラス担任の先生から説明がある。

H20カリキュラムについて

平成20年度から始まったカリキュラムは、将来必要と

なる国際資格 (JABEE, UNESCO-UIA) にも対応した科目構成となっており、専門科目の受講に必要な基礎教養や技術を修得することを目的としている。「学部要覧」の授業科目配置表を見るとわかるように、1年次からの2年間で建築学の基礎となる幅広い領域の専門教育が受けられること、3年次からは、「環境・構造コース」、「設計・計画コース」、「企画経営コース」を選択し、より高度な専門分野の知識と技術が習得できることが本カリキュラムの特徴である。なお、いずれのコースを選択しても一級建築士レベルの知識が得られるように工夫されている。各コースの履修の詳細については別途配布する「建築学科履修の手引き」を参照されたい。コースの選択・登録は2年次後期終了時に行われる。各コースには定員が設けられており、各人の希望、取得科目・単位、適性などを考慮しながら、建築学科教室がコースを決定する。

教養教育科目・外国語科目の履修について

時間割表を見るとわかるように、大学生にふさわしい人格形成のため、さらにこれから専門教育を受ける上で必要と思われる教養教育科目が1年次に設置されている。

外国語科目は、英語を中心にして、第2外国語にドイツ語、フランス語、その他を選択するとよい。

基礎教育科目の履修について

基礎教育科目は、工学全般の基礎となる「(選択) 共通基礎教育科目」と、専門教育を受ける上で基礎となる知識や学力を蓄えることを目標とした「(必修/選択) 専門基礎教育科目」が設置されている。専門基礎教育科目には、「デザイン基礎」、「建築基礎実験」の必修2科目および「建築基礎数学」、「建築基礎物理Ⅰ、Ⅱ」、「コンピュータリテラシ」の選択4科目が設置されている。これらはすべて建築学の基礎であるから、1年次ですべて受講するとよい。なお、専門基礎教育科目は駿河台校舎には設置されないこと、「デザイン基礎」の単位を修得しないと「建築設計Ⅰ」を受講できないことに留意すべきである。

専門教育科目の履修について

専門教育科目には、必修5科目と選択3科目の計8科目が設置されている。この内、「環境の計画と技術 (必修)」、「社会と建築・都市インセンティブ (必修)」、「建築デザインと歴史」、「構造の計画と技術」の4科目は、広汎な建築分野への導入と学習意識の向上を図るために設けた教科である。これらは2年次以降の専門科目を履修するための基礎知識を修得するものであり、すべての受講をすすめる。また、「建築スタディ・スキルズ (必修)」は、専門科目を履修するための基礎教養や技術を修得するものである。なお、1年次の専門教育科目は駿河台校舎には原則として設置されないこと、「建築設計Ⅰ」の単位を修得しないと「建築設計Ⅱ」を受講できないことに留意すべきである。

1 年次では最大 49 単位までの履修登録が認められる。無計画に毎日 5 時間まで授業を組む必要はない。卒業までの 4 年間でどう過ごすかを十分に考えた上で、長期的な視野で受講計画を立てることをすすめる。

2 年次生

専門教育科目の履修について

履修規定は入学時に配布した「平成 19 年度 (2007) 学部要覧」による。2 年次から本格的な専門教育課程に入り、教育効果を高めるために 2 クラスに分けて各専門科目を受講するように時間割が編成されている。クラスは学生番号が奇数の学生が 1 組、偶数の学生が 2 組である。それぞれ該当するクラスの時間割に従って、受講計画を立ててもらいたい。なお、1 年次設置の専門教育科目を受講する必要のある者は、原則として船橋校舎の授業を受けなければならない。

2 年次設置の専門教育科目は、いずれも建築を学んでいく上の基礎的な科目であり、ほぼ二級建築士レベルの内容を扱っていると考えてよい。このため、必修科目 (11 科目) はもちろんのこと、共通に位置づけられている 8 科目についても、「必修」と同様に考えて受講してもらいたい。また、環境・設備系群、構造・生産系群、設計・計画系群、企画経営系群に分類されている科目の中には、一級建築士受験の必須科目である「構造力学Ⅲ」や、専門的な内容を扱う「建築企画経営」なども含まれている。これらは次年度選択することになるコースの入門的な内容で、コースをまたがって受講できるようになっている。この内、「建築企画経営」は企画経営コースの選択必修科目 (卒業のためには※印 6 科目中 5 科目以上を修得する必要がある) であり、本コースを目指す場合には必ず受講することをすすめる。

H15 カリキュラムの系統図や分類については、1 年次のガイダンスで配布した「2007 年 建築学科履修の手引き」を再読して、各科目の位置づけと相互の関連をよく検討した上で選択科目を決めるとよい。なお、3 年次終了までに卒業に必要な単位の約 78% にあたる 102 単位以上を修得していないと、4 年間で卒業できない。受講計画全般については、クラス担任に相談するとよい。

基礎教育科目の受講について

2 年次に設置されている基礎教育科目は、共通基礎教育科目では「線形代数学」、専門基礎教育科目では「材料化学Ⅰ」、「建築情報処理Ⅰ」の 3 科目が設置されている。受講計画は、環境工学、構造、都市計画の基礎として「線形代数学」を、構造・材料の基礎として「材料化学Ⅰ」を、環境工学、建築計画の基礎として「建築情報処理Ⅰ」

の受講をすすめる。

環境・構造コース、設計・計画コース、企画経営コースの選択と登録について

2 年次の終了時に、「環境・構造コース」、「設計・計画コース」、「企画経営コース」のいずれかを選択・登録し、3 年次以後は、それぞれのコースのカリキュラムに従って、各科目の受講計画を立てることになる。ここで注意すべきことは、コース毎に卒業条件が定められていることである。また、3 年次にはコース毎に独自の専門教育科目が設置されている。これらの科目はコース決定後に初めて受講できること、また他コースの独自科目の受講は他学科受講扱いになることにも注意してほしい。いいかえれば、2 年次終了時にいずれかのコースに着手できなければ、4 年間で卒業が不可能になることを肝に銘じてほしい。

コースに着手できる条件として、建築学科教室は「2 年終了時の取得総単位数が 42 単位」という条件を設定している。これは卒業研究・設計への着手条件 (3 年次終了時に 102 単位) から、1 年間で取得できる単位数の上限 (60 単位) を差し引いた数値で、大部分の学生が無理なく修得できる単位数であろう。

コースの決定は、学生の希望を十分に尊重することを原則とするが、希望コースの偏りが生じた場合には、教育の質を確保するために振り分けを実施せざるを得ない場合もある。このコース振り分けはクラス担任を中心に建築学科教室が実施するが、学生個々の修得科目の成績 (総得点、平均点) や内容などに基き適性を勘案しながら決定する方針である。これらの具体的な振り分け方法については、後日クラス担任から説明がある。なお各コースの最大受け入れ可能な学生数の目安は、教室・製図室の収容人数やコース設定時の定員から、環境・構造コースと設計・計画コースはそれぞれ約 150 名、企画経営コースは約 50 名と定めている。

コースの決定は次のようなスケジュールで実施する予定である。まず前期終了時または後期開始時に、希望コースのアンケートを行う。これは希望コースの偏りの推定のために実施するため、必ずアンケートに応じてほしい。続いて後期終了時に希望コースの登録を実施する。クラス担任は、登録された希望コースに基づいて春季休暇中にコースを決定し、3 年次開始時のガイダンス前に発表を行う。以上の具体的な日程は掲示や建築学科のホームページを通じてクラス担任から伝えられるので、確認を怠らないように心がけてほしい。

「建築生産実験」、「建築設計Ⅱ、Ⅲ」の受講について

実験も建築設計も十数名の小グループに分けて行われるので、それぞれのガイダンスには必ず出席すること。駿河台校舎の実験室は手狭なので、各班ごとに時間をず

らして各種実験が行われることが多い。実験の予定・準備する資料やその他の注意事項は駿河台校舎5号館4階および6階EVホール掲示板に掲載されるので、確認するように心がけてほしい。また、建築設計の注意事項は5階EVホール掲示板に掲載される。

3年次生

各コースの受講に関する原則について

3年次では、自分が所属する環境・構造コース、設計・計画コース、企画経営コースのいずれかのコースのカリキュラムに沿って、受講計画を立てる必要がある。各コースで受講できる科目は、時間割を見ると判断しやすい。3年次からの時間割は2年次までのようにクラス毎に分かれてはならず、コース毎に分かれて記載されている。各コースの時間割に掲載されている科目は、入学時に配布された「平成18年度(2006)学部要覧」あるいは「2006年度 建築学科履修の手引き」の授業科目配置表に対応している。各自が所属するコースの科目を受講するには何ら制限はないが、他コースに設置した科目を受講する場合には制限がある。後述する「他コース設置科目の受講について」を参照してほしい。

3年次では、最大60単位までの履修登録が認められる。受講計画の際にはこの点について留意すべきであるが、2年次までの設置科目、特に必修科目を未修得の場合、優先的に受講する必要がある。この場合、卒業研究・設計着手条件を満足することも重要である。受講計画が困難な場合にはクラス担任に相談するとよい。

表1 3年次専門教育科目「共通科目」の構成

科目名	単位	環境・構造コース	設計・計画コース	企画経営コース
※都市計画Ⅰ	2	●	●	●
建築環境実験	1	●	○	○
建築構造実験	1	●	○	×
建築設計Ⅳ	2	○	●	●
企画経営実習	1	×	×	●
※建築施工法	2	○	○	○
※建築積算・生産管理	2	○	○	○
※地盤基礎工学Ⅰ	2	○	○	○
※鋼構造	2	○	○	△
※鉄筋コンクリート構造Ⅰ	2	○	○	○
※建築設備Ⅱ	2	○	○	○
循環環境管理	2	○	○	△
建築人間工学	2	○	○	○
ゼミナール	1	○	○	○

● 必修 ○ 選択 △ 他学科受講により受講可能 × 受講不可
※ 一級建築士受験のために重要

基礎教育科目の受講について

3年次に設置されている基礎教育科目は、共通基礎教育科目では「数理統計学」が、また専門基礎教育科目では、「材料化学Ⅱ」、「建築情報処理Ⅱ」、「振動工学」、「芸術史」が設置されている。受講計画は、環境・構造・建築計画・都市計画の基礎として「数理統計学」を、構造・材料の基礎として「材料化学Ⅱ」を、構造の基礎として「建築情報処理Ⅱ」、「振動工学」を、建築計画・設計の基礎として「芸術史」の受講をすすめる。

専門教育科目「共通科目」の受講について

3年次以上の専門教育科目は、「共通科目」と「各コース独自科目」に大別できる。

「共通科目」は必修科目と選択科目に分かれているが、建築を学ぶ上で基礎となる科目であり、一級建築士受験の際に不可欠な科目も含まれている。共通科目の「共通」という意味は、「コースに関わらず同じ内容(シラバス)で実施する科目」ということであるが、各コースによって必修・選択の区別などの取り扱いが異なっている科目もあるため、注意が必要である。表1を参考にしてほしい。

表1の中で△印は他学科受講の手続きを行った後に受講可能な科目を、また×印は他学科受講が認められない科目である。詳しくは後述の「他コース設置科目の受講について」を参照してほしい。

また、表1の※印のついた科目は、一級建築士受験のために極めて重要と考えられる科目である。所属コースに関わらず受講することを強くすすめる。

「ゼミナール」は、卒業研究・設計の着手前に、各研究室で行われている研究の状況を実際に体験してもらうことを目的として設置された選択科目である。事務処理上、

表2 3年次専門教育科目「各コース独自科目」一覧

	環境・構造コース	設計・計画コース	企画経営コース
科目名と単位	建築設備Ⅲ	2 ×建築設計Ⅳ	2 都市デザイン*2
	環境工学Ⅲ	2 ×設計演習Ⅱ	2 経済学特論Ⅰ
	構造力学Ⅳ	2 ×設計演習Ⅲ	2 経済学特論Ⅱ
	構造力学演習Ⅳ	1 設計計画Ⅰ	2 会計学
	地盤基礎工学Ⅱ	2 設計計画Ⅱ	2 民法Ⅰ
	対地震構造	2 ランドスケープデザイン	2 民法Ⅱ
	鉄筋コンクリート構造Ⅱ	2 インテリアデザイン	2 行政法規
	構造設計Ⅰ及び演習	3 建築史Ⅲ	2 不動産経営
		2 建築史Ⅳ	2 不動産維持管理
		2 都市デザイン*2	2 鑑定評価理論Ⅰ
		2 ×都市調査及び演習	2 環境システム解析
		2 ×デザインワークショップⅠ*	2 地域開発計画Ⅰ
		2 ×デザインワークショップⅡ*1	2 地域開発計画Ⅱ
			2 ×建築企画設計及び演習Ⅰ
			1 ×不動産企画及び演習Ⅰ

× 他コースは受講不可能

*1 夏季集中講義として、「デザインワークショップⅠ」と「Ⅱ」が交互に隔年で開講される。平成20年度は「Ⅱ」が開かれる

*2 設計・計画コースと企画経営コースの共通科目

いずれかの研究室に所属することになるが、他研究室が開講する講座を自由に受講することが可能である。所属研究室および受講研究室は、所属コースに関係なく希望することができる。「ゼミナール」の実施要項やスケジュールは、前期試験の終了時にクラス担任から具体的な説明がある。

専門教育科目「各コース独自科目」の受講について

各コースで設定された「独自科目」は、共通科目より専門性の高い科目で、各コース独自の教育目標に対応して設置されたものである。いずれも将来のスペシャリストを目指す上で基礎的で重要な科目である。時間割上、これらの科目は当該コースにしか設置されていないが、他コースに設置された科目を受講する場合には、他学科受講扱いとして承認が必要なこと、卒業条件には10単位まで算入可能であるが、卒業研究・設計着手条件には算入されないことに注意してほしい（後述の「他コース設置科目の受講について」を参照のこと）。

表2に3年次に設置された「各コース独自科目」の一覧を示す。×印の科目は、他コースの学生は受講不可能であることに注意してほしい。

他コース設置科目の受講について

時間割において自分が所属するコースに設置されている科目のみを受講することを原則とする。すなわち「共通科目」のように、所属コースと他コースで同一名の科目がある場合でも、他コースの科目を受講することは原則的に認められない。しかし、コース独自科目のように、所属しているコースに受講希望の科目がない場合は、以下の条件をすべて満足する場合に限り受講が認められる。

- ・2年次終了までの修得単位数が85単位以上の場合（3年次編入生は緩和措置があるので、担任と相談すること）。
- ・3年次終了時に卒業研究・設計着手条件を満足する見込みがあり、かつ受講計画に余裕がある場合。
- ・クラス担任と科目担当教員が許可した場合（許可印が必要）。
- ・当該科目が、実験・実習・設計などの科目でない場合（具体的には表1および表2中の×印のついた科目は、受講ができない）。

これらの条件は、他学科設置科目の受講の場合と同じものである。すなわち、他コースの独自科目受講は他学科の設置科目受講扱いになることに注意してほしい。

また、こうして修得した単位は、10単位までは「卒業に必要な単位」に算入することは可能であるが、卒業研究・設計着手条件には算入できないことに留意すべきである。

卒業研究・設計着手条件について

4年次に卒業研究・設計に着手するためには、卒業条件の単位数130単位の約78%に当たる102単位以上を3年次中に修得しなければならない。この単位数は、単に

3年次までに修得した単位の合計ではなく、卒業条件を考慮した以下の条件を満足する必要があるので、十分に注意してほしい。この卒業研究・設計の着手条件は厳守され、例外はない。

- ・総合教育科目、保健体育科目、基礎教育科目はそれぞれ、14単位、2単位、16単位まで算入する（それぞれの単位数を超えて修得している場合でも、当該単位数として扱われる）。
- ・外国語科目は、英語6単位まで、その他の外国語4単位まで算入する。
- ・他学科の設置科目（他コースの独自科目も含む）は、算入しない。
- ・専門教育科目の3年次までの必修科目（環境・構造コース：17科目31単位、設計・計画コース：16科目31単位、企画経営コース：17科目32単位）から24単位以上修得していなければならない。

これらの条件の内、先の3条件を考慮すると、専門教育科目の修得単位数は、必修科目を含めて60単位以上修得する必要があることになる。

また、4年次の卒業研究・設計に十分な時間をかけて悔いのない大学生活を送るためには、3年次終了までに修得単位数が卒業条件として有効な単位だけで少なくとも114単位以上あることが望ましい。

3年次編入生の受講について

3年次編入生は、1、2年次の設置科目から優先的に受講しなければならない。なお、編入生は認定単位の制約から3年次の受講計画が一番困難である。このため編入生には、他コース設置科目の受講に関して、特別な条件が設定されることがあるので、受講計画立案の段階でクラス担任によく相談してほしい。

就職について

本来ならば、4年次になって卒業研究・設計指導の先生が決まり、しばらく研究室活動を行ってから、大学院進学や就職先など卒業後の進路について指導の先生と相談するのが理想であるが、実際には就職活動は3年次の期末試験前後から始めざるを得ないようになってしまっている。そこで、積極的に建築学科教室の就職情報（学内のみ閲覧可能なホームページによる情報あり）を見たり、企業のホームページ、D.M.を検討するなど、情報収集はできるだけ広い範囲で行い、進路について身近な先生方や先輩、両親などに早めに相談するとよい。

4年次生

4年次の新学期で最も大事なことは、諸君のそれまでの修得単位数によって当該年度に卒業する見込みがある

表3 4年次設置共通科目の構成

科目名	単位	環境・構造コース	設計・計画コース	企画経営コース
卒業研究・設計	10	●	●	●
防災計画	2	○	○	○
建築経済	2	○	○	△
建築法規Ⅱ	2	○	○	△
都市計画Ⅱ	2	○	○	○

● 必修 ○ 選択 △ 他学科受講により受講可能

表4 各コースの独自科目一覧（4年次）

	環境・構造コース	設計・計画コース	企画経営コース
科目名と単位	環境計画 2	特別講義*1 (デザイン論) 2	不動産特別講義 2
	設備計画 2	×建築設計Ⅵ 2	不動産マーケティング 2
	特別講義*1 (構造設計論) 2	設計計画Ⅲ 2	鑑定評価理論Ⅱ 2
	×測量及び実習 2	保存修復論 2	都市防災 2
	構造解析法 2	×デザインワーク ショップⅠ*2 1	×不動産企画及び演習Ⅱ 2
	構造設計Ⅱ 2	×デザインワーク ショップⅡ*2 1	建築マネジメント 2

× 他コースは受講不可能

*1 どちらか一方のテーマを選択・受講

*2 平成20年度は「デザインワークショップⅡ」を夏季集中講義で開講する(表2*1参照)。

かどうかの判断が下されることである。卒業見込み者＝卒業研究・設計着手者であり、大学生活最後の年度は卒業研究・設計のテーマ設定と指導教員の選択から始まる。

卒業研究・設計の着手について

建築学科における卒業研究・設計着手条件は、上述の「3年次生」の項目に記述している「卒業研究・設計着手条件について」を参照すること。この条件を満たした学生に対しては、理工学部より卒業見込証明書が発行される。

卒業研究・設計着手条件を満足する学生は、「駿建」2008年1月号のテーマを参考にして、自分の希望する研究室に卒業研究・設計の申し込みをすることができる。原則として、研究室は所属コースに関係なく希望することができるが、着手のための条件を定めている研究室もある。上述の「駿建」や4月初めの卒業研究・設計ガイダンスを通じて情報収集につとめてほしい。

申し込みの方法などについては、クラス担任から4年次事務ガイダンスの際に詳しい説明がある。

卒業研究・設計とは

大学生活の締めくくりは、4年生の卒業研究・設計である。各研究室が自由に、国際的に通じるような研究・設計を行い、その成果を背景として生きた教育を行っていくことに意義があり、そこに大学の活力が生まれる。したがって、各研究室に所属する大学院生と4年生に対する指導、すなわち修士論文・設計と卒業研究・設計の指導が、先生個人にも大学にとっても教育の中心となっている。先輩・後輩のつながりや講義では得られない先

生方との貴重なふれあいが、「自ら学ぶこと」をモットーとする大学での最も重要な時間となる。1年間、研究室に所属して担当教員と研究・設計テーマを追求し、大学院進学も含めて、広い領域を含んだ「建築」の中から自分の個性や適性にあった指標を定めていく。

研究・設計には、個人あるいはグループがあるが、いずれの場合も自分の可能性をみつめながら真剣に学び、学問だけでなく、生涯の友をつくり、自分を磨くこと、それが卒業研究・設計である。

専門教育科目の受講について

環境・構造、設計・計画、企画経営の各コースの4年次に設置されている専門教育科目を表3と4に示す。2、3年次の主な専門教育科目を修得した上で、将来の進路なども考慮して、所属しているコースの設置科目から選択して受講するとよい。他コースに設置されている科目を受講することも可能であるが、以下の条件をすべて満足する必要がある。

- ・3年次終了時までの修得単位数が125単位以上の場合。
- ・4年次終了時に卒業できる見込みがあり、かつ受講計画に余裕がある場合。
- ・クラス担任と科目担当教員が許可した場合（許可印が必要）。
- ・当該科目が、実験・実習・設計などの科目でない場合（具体的には表4中の×印の付いた科目は受講できない）。

なお、他コース設置科目を修得した場合、10単位までは「卒業に必要な単位」として算定することができる。

専門教育科目に関する卒業条件

ここでは平成15年度からのH15カリキュラムを対象として説明する。平成14年度以前の入学者については、入学時に渡された「学部要覧」、「建築学科履修の手引き」、あるいは「駿建」2005年4月号を参照してほしい。建築学科の卒業に必要な単位は130単位以上と設定されているが、この内、総合教育科目が14単位、外国語科目が10単位、保健体育科目が2単位、基礎教育科目が16単位、その他いずれの科目区分にもよらない科目（他学科・他コース設置科目も含む）が10単位、それぞれ上限値として算入されるため、専門教育科目としては78単位以上取得する必要がある。この専門教育科目に関わる卒業条件は各コースの特徴を反映しているため、コース毎に大きく異なっており、注意が必要である。例えば環境・構造コースは共通科目の取得を重視しているのに対して、設計・計画コース、企画経営コースは3年次以上のコース独自科目の修得が必要とされている。

【環境・構造コース】

- ①必修科目 18科目 41単位
- ②選択共通科目（26科目 50単位）から、1・2年次の科目（12科目 23単位）9科目以上を含めて 29単位

③環境・設備系群科目（6科目10単位）から8単位、または構造・生産系群科目（15科目27単位）から8単位の3条件が設定されている。各コースは以下の条件をすべて満足して、78単位以上修得することが条件となっている。これは卒業研究・設計に着手できた場合、4年次前期で十分に修得できる単位数である。履修計画を立てる際には、各自の進路や卒業研究・設計テーマとも関連づけて、卒業研究・設計の指導教員やクラス担任と相談の上、選択するのが望ましい。

【設計・計画コース】

①必修科目17科目41単位

②選択共通科目（27科目50単位）から1・2年次の科目（12科目23単位）7科目以上を含めて17単位

③設計・計画系群科目（18科目34単位）から20単位の3条件が設定されている。この内、③は2年次の科目の「設計演習Ⅰ」以外はすべて3年次以上のコース独自科目である（表2、4を参照）。この中には建築設計、設計演習、デザインワークショップなどの演習科目が比較的多く含まれており、受講計画の際にはこの点を考慮しておく必要がある。

【企画経営コース】

①必修科目18科目42単位

②選択共通科目（22科目41単位）から12単位

③企画経営系群科目（21科目41単位）から※印の科目（「建築企画経営」、「経済学特論Ⅰ」、「民法Ⅰ」、「建築企画設計」、「不動産企画及び演習Ⅰ、Ⅱ」の6科目11単位）を5科目以上含めて24単位

の3条件が設定されている。また、4年次設置の専門科目は、コース独自科目がほとんどである。

大学院進学について

デザイナー、構造デザイナー、（室内）環境設計者、研究職など、将来、専門性の強い分野での活動を目指す諸君には、大学院博士前期（修士）課程への進学をすすめる。最近の就職事情をみると、これらの分野への就職は大学院修了者が断然有利である。

建築学科の卒業生が進学する理工学研究科の専攻としては、「建築学専攻」および「不動産科学専攻」が挙げられる。理工学研究科は博士前期（修士）課程と博士後期（博士）課程を設置している。建築学および不動産科学専攻の平成21年度入学試験の募集定員はそれぞれ50、10名の予定である。

ここでは建築学専攻の修士課程進学についてのみ説明する。学部の卒業見込者および卒業生（社会人は除く）が受験できる入学試験は、7月に実施される「学内推薦入学試験」と「一般第Ⅰ期入学試験」、9月に実施される「一般第Ⅱ期入学試験」および3月実施の「一般第Ⅲ期入学試験」の4種類である。

現状では、大学院進学者は学部4年次卒業研究・設計の指導教員の下で継続して指導を受けるケースが大部分を占めている。したがって、進学希望者は大学院での学修・勉学・研究・設計などを視野に入れて卒業研究・設計の指導教員の研究・設計活動などに関する情報を収集しておくことをすすめる。

大学院修士課程の学生を指導できる教員（現状17名）を次に示す。ここではこれらの教員を「大学院教員」と呼ぶことにする。

●環境・設備系（環境工学特別研究）：3名

井上勝夫、関口克明、早川 真

●材料・構造・防災系（建築材料学特別研究、建築構造学特別研究、防災工学特別研究）：6名

安達俊夫（構造）、白井伸明（構造）、半貴敏夫（構造）、三橋博巳（構造）、岡田 章（構造）、石丸辰治（防災）

●設計・計画系（建築史特別研究、建築計画特別研究、都市計画特別研究）：8名

片桐正夫（歴史）、大川三雄（歴史）、本杉省三（計画）、横河 健（計画）、今村雅樹（計画）、佐藤光彦（計画）、小嶋勝衛（都市計画）、根上彰生（都市計画）

建築学科では、より広い分野にわたる教育・研究活動の推進、充実した指導体制の確立などを目指して以下のルールを設けている。

①大学院教員1人あたりの受入大学院生数は概ね6名までとする。

②学内推薦入学試験の受験資格は、卒業見込者の成績（卒業研究着手時）が概ね上位25～30%に入る学生で、大学院教員の推薦を受けた者とする。ただし、大学院教員が推薦できる学生数は最大4名までとする。

③大学院の推薦入学試験および一般入学試験の受験希望者は、国家公務員採用試験を受験していることが望ましい。

④短大教員を含む専任講師・助教以上の大学院教員以外の教員は、大学院教員と協同指導することで大学院生を受け入れることができる。ただし、受入大学院生は教員1人あたり2名までとし、協同指導の大学院教員の6名枠に含めるものとする。

以上が大学院進学に関する情報の概要であるが、詳しくは4年生クラス担任に相談するとよい。

また、不動産科学専攻に関する詳細な情報を知りたい学生は、三橋博巳教授に相談すること。

建築実験について

建築実験は、それぞれ十数名の班単位で行われる。各実験項目についての班分けや実施日程などは、別にプ

ントとして新学期の総合ガイダンス時にクラス担任から配布される。実験科目と実験項目、担当者一覧を表5に示す。

建築設計について

1年次生は、H20カリキュラム、2～6年次生は、H15カリキュラム、7年次生以上は、それ以前の旧カリキュラムでの履修になるので留意すること。

- ・建築設計の受講に関する手続きの詳細は、学期初めに行う建築設計ガイダンスの際に配布する「2008年度 建築設計課題集」に記載してある。本年度の建築設計科目の担当者、事務担当者についても課題集を参照のこと。
- ・建築設計関係科目に関する一般的な連絡は、駿河台校舎は5号館5階EVホール掲示板、船橋校舎は14号館3階講師室前に掲示する。

1～6年次生（平成15年度以降入学者）

選択するコースによって、建築設計科目の履修条件が異なるので十分留意すること。

「建築設計」はⅠ～Ⅲまでが全コース必修科目で、2年次後期の「設計演習Ⅰ」は選択科目である。3年次前期の「建築設計Ⅳ」は、設計・計画、企画経営コースでは必修科目、環境・構造コースでは選択科目であり、課題内容も異なる。

「建築設計Ⅴ、Ⅵ」、「設計演習Ⅱ、Ⅲ」、「デザインワークショップⅠ、Ⅱ」は、設計・計画コースのみの設置科目であり、選択科目である。将来、主として設計（デザ

イン）方面に進む学生を対象とした課題によって構成されている。

「デザインワークショップⅠ、Ⅱ」は、3、4年次生を対象として、夏季集中授業として交互に隔年で開講される。
 ・必修科目である「デザイン基礎」、「建築設計Ⅰ～Ⅲ」は、設置順に段階的に単位を修得しなければならない。
 ・選択科目である「建築設計Ⅳ～Ⅵ」、「設計演習Ⅰ～Ⅲ」は、設置順に段階的に単位を修得することが望ましい。

7年次生以上（平成14年度以前入学者）

「(旧)建築設計」はⅠ～Ⅲまでが必修科目で、3年次後期の「(旧)設計演習Ⅰ」と4年次前期の「(旧)設計演習Ⅱ」は選択科目である。「(旧)設計演習Ⅰ、Ⅱ」は、将来、主として設計（デザイン）方面に進む学生を対象とした課題によって構成されている。受講計画を立てる時には、自分の進路をよく考えてから選択してもらいたい。

・建築設計の科目は、必修、選択ともに同時受講はできない。「(旧)デザイン基礎Ⅰ、Ⅱ」を修得しないで「(旧)建築設計Ⅰ、Ⅱ」を、「(旧)建築設計Ⅰ、Ⅱ」を修得しないで「(旧)建築設計Ⅲ」と「(旧)設計演習Ⅰ」を、「(旧)建築設計Ⅲ」と「(旧)設計演習Ⅰ」を修得しないで「(旧)設計演習Ⅱ」を受講することはできない。すなわち、建築設計科目は、設置順に段階的に単位を修得しなければならない。

・「(旧)デザイン基礎Ⅰ、Ⅱ」、「(旧)建築設計Ⅰ、Ⅱ」を修得していない者は、平成15年度から新しいカリキュラムがスタートしているため、表6に示すように科目名称が変更となっているので留意すること。事務担当に確認の上、再受講手続きを行う。

表5 建築実験の実験項目と担当者一覧（平成15年度以降入学者）

実験科目名と担当責任者	実験項目と担当者
建築基礎実験（必修・2単位） 宮里	化学実験（一般・化学）
	物理実験（一般・物理） 専門科目 振動実験（石丸、古橋（剛）） 構造部材（宮里） 構造強度（宮里） 風洞実験（三橋、下村、広部）
建築生産実験（必修・1単位） 三橋	木材・コンクリート実験 （中田、中山、飛坂、藤井） 鋼材実験（半貫、三橋）
建築環境実験（環境・構造コース：必修、他コース：選択；1単位）井上	騒音実験（井上、橋本、雷田、吉村） 設備実験（蜂巣） 光実験（関口、羽入）
建築構造実験（環境・構造コース：必修、設計・計画コース：選択；1単位）田嶋	構造安定実験（宮里） 構造部材実験（白井、田嶋、清水（泰）） 土質実験（安達、山田）

(注) 実験項目については、担当者の研究室へ、合否その他総合的な質疑は、担当責任者に問い合わせること

表6 建築設計科目対照表

学年	前・後期	旧カリキュラム	H20・H15カリキュラム
		7年次生以上	1～6年次生
1年	前期	(旧)デザイン基礎Ⅰ	デザイン基礎
	後期	(旧)デザイン基礎Ⅱ	建築設計Ⅰ
2年	前期	(旧)建築設計Ⅰ	建築設計Ⅱ
	後期	(旧)建築設計Ⅱ	建築設計Ⅲ
3年	前期	(旧)建築設計Ⅲ	建築設計Ⅳ*1
		—	設計演習Ⅱ
	後期	(旧)設計演習Ⅰ	建築設計Ⅴ
		—	設計演習Ⅲ
夏季集中	—	デザインワークショップⅠ、Ⅱ	
4年	前期	(旧)設計演習Ⅱ	建築設計Ⅵ
	夏季集中	—	デザインワークショップⅠ、Ⅱ
前・後期	(旧)卒業制作	卒業研究・設計*2	

■ 全コース必修

*1 設計・計画コース、企画経営コースの学生は必修

*2 時間割では、7年次以上の登録のために「卒業制作」を設けてある

建築学科 専門科目使用教科書並びに参考書

(教科書は太字, その他は主要参考書)

科目名	書名	編著者名・訳者名など	発行所名	定価(税込)	取扱所
環境の計画と技術	建築通論	建築通論編集委員会 編	彰国社	3,675	ガイダンス時に案内
構造の計画と技術	建築通論	建築通論編集委員会 編	彰国社	3,675	ガイダンス時に案内
	空間 構造 物語	斎藤公男	彰国社	3,780	書店
	建築の絵本 建築構造のしくみ	川口 衛 他	彰国社	2,625	書店
建築デザインと歴史	建築デザインの戦略と手法 一作品分析による実例トレーニング	サイモン・アンウイン 著 重枝 豊 監訳 上利益弘 訳	彰国社	3,360	ガイダンス時に案内
環境工学 I	建築環境工学 [改訂2版]	田中俊六, 武田 仁 他	井上書院	3,150	書店
	建築環境工学用教材 環境編	日本建築学会	日本建築学会	1,890	書店
環境工学 II	建築音響と騒音防止計画	木村 翔	彰国社	3,570	建築音響研究室 (ガイダンス時に案内)
	建築環境工学用教材 環境編	日本建築学会 編	丸善	1,937	書店
建築設備 I, II, III	建築設備概論	吉田 燦	彰国社	4,200	ガイダンス時に案内
	環境工学用教材 設備編	日本建築学会 編	日本建築学会	1,937	書店
	空気調和設備の実務の知識	空気調和・衛生工学会 編	オーム社	4,434	書店
	給排水・衛生設備の実務の知識	空気調和・衛生工学会 編	オーム社	4,414	書店
	暮らしの技術としての建築設備入門	吉田あきら 他	理工図書	4,148	書店
環境計画	実務的騒音対策指針 第二版	日本建築学会 編	技報堂出版	4,725	建築音響研究室 (ガイダンス時に案内)
	その他 (検討中)	---	---	---	---
建築基礎実験・建築生産実験	建築実験法	建築系学科 共著	彰国社	5,077	材料施工研究室(566A)
	はじめてまなぶちからとかたち	日本建築学会	日本建築学会	1,995	書店
構造力学 I, II	建築構造力学 (上巻)	齋藤謙次	理工図書	2,467	ガイダンス時に案内
	建築の構造とデザイン	齋藤公男 監訳	丸善	2,940	書店
構造力学 III, IV	建築構造力学 (下巻)	齋藤謙次	理工図書	2,467	ガイダンス時に案内
	建築の構造とデザイン	齋藤公男 監訳	丸善	2,940	書店
	鋼構造塑性設計指針	日本建築学会	日本建築学会	3,360	日本建築学会, 書店
構造力学演習 I, II, III, IV	建築構造力学演習(上, 下)	齋藤謙次	理工図書	各1,837	ガイダンス時に案内
建築材料 I, II	建築材料用教材	日本建築学会 編	日本建築学会	1,995	材料施工研究室(566A)
応用力学 I, II	建築材料力学	榎並 昭	彰国社	2,783	地盤基礎研究室(565A)
応用力学演習 I, II	建築応用力学演習	加藤 渉, 榎並 昭	共立出版	2,205	書店

科目名	書名	編著者名・訳者名など	発行所名	定価(税込)	取扱所
構造とデザイン	空間 構造 物語	斎藤公男	彰国社	3,780	書店
	建築の絵本 建築構造のしくみ	川口 衛 他	彰国社	2,625	書店
	建築の構造とデザイン	斎藤公男 監訳	丸善	2,940	書店
	柱のない空間 ースポーツ・イベント・展示ホールー	日本建築学会	彰国社	1,937	空間構造デザイン研究室(569B)
建築構法 I	図説テキスト 建築構造 (構造システムを理解する)		彰国社	2,730	書店
	構造用教材	日本建築学会	日本建築学会	1,937	書店
建築構法 II	建築構法	内田祥哉	市ヶ谷出版	2,940	書店
	構造用教材	日本建築学会	日本建築学会	1,937	
	図解テキスト 基本建築学	上杉 啓, 真鍋恒博 他	彰国社	4,410	
振動工学, 対地震構造	応答性能に基づく 「対震設計」入門	石丸辰治	彰国社	4,830	ガイダンス時に案内
鋼構造	鋼構造の設計	佐藤邦昭	鹿島出版会	3,570	書店
	鋼構造設計演習	日本鉄鋼連盟	技報堂	4,935	書店
	鋼構造設計規準	日本建築学会 編	日本建築学会	6,090	日本建築学会, 書店
鉄筋コンクリート構造 I, II	コンクリート構造	本岡順二郎	彰国社	2,835	ガイダンス時に案内
	鉄筋コンクリート構造の設計 ー学びやすい構造設計		技報堂	5,250	書店
建築施工法, 建築積算	建築の施工と見積	建築の施工と見積研究会	彰国社	4,620	鋼構造研究室(568B)
地盤基礎工学 I, II	基礎構造の設計 ー学びやすい構造設計ー	日本建築学会関東支部	日本建築学会 関東支部	3,600	地盤基礎研究室(565A)
	建築基礎構造設計指針 (2001改定)	日本建築学会	日本建築学会	5,670	日本建築学会, 書店
構造設計法及び演習 I 構造設計 II	鉄筋コンクリート構造計算規準・同解説1999 ー許容応力度設計法ー	日本建築学会	日本建築学会	5,880	日本建築学会, 書店
	建築学構造シリーズ 建築空間構造	皆川洋一 編著	オーム社	3,990	空間構造デザイン研究室(569B)
	構造設計論	佐藤邦昭	鹿島出版会	3,255	書店
	鋼構造設計規準	日本建築学会 編	日本建築学会	6,090	日本建築学会, 書店
測量及び実習	実用測量	伊澤倫一郎	理工図書	4,095	ガイダンス時に案内
構造解析法	エクセル有限要素法入門 骨組構造解析編	山下四郎, 田中寿美	山海堂	3,200	書店
デザイン基礎	建築図学概論	若色峰郎, 柳田 武 他	彰国社	3,150	書店
	建築デザインの製図法から簡単な設計まで	武者英二, 永瀬克己	彰国社	2,415	書店
建築設計 I	建築設計教室	勝又, 宮下, 本杉	彰国社	3,150	書店
	新訂 建築製図	日本建築学会	彰国社	1,680	書店
建築法規 I	基本建築関係法令集 上巻 (法令編) 平成20年版	建設省住宅局建築指導課	霞ヶ関出版	未定	書店もしくは指定された日に購入

科目名	書名	編著者名・訳者名など	発行所名	定価(税込)	取扱所
建築法規Ⅱ	建築家の法律学入門	大森文彦 著	彰国社	1,995	ガイダンス時に案内
	建築工事の瑕疵責任入門	大森文彦 著	大成出版社	1,785	ガイダンス時に案内
建築計画Ⅰ・Ⅱ	建築計画を学ぶ 第3版 コンパクト建築設計資料集成	建築計画教材研究会 編	理工図書	3,675	ガイダンス時に案内
		日本建築学会編	丸善	5,040	ガイダンス時に案内
建築人間工学	建築設計資料集成 一人間	日本建築学会	丸善	9,870	書店
	建築人間工学事典	日本建築学会	彰国社	3,780	書店
	人間工学の百科事典		丸善		書店
設計計画Ⅰ	建築計画を学ぶ	建築計画教材研究会	理工図書	3,675	書店
	設計方法Ⅴ	日本建築学会、建築計画委員会、設計方法小委員会	彰国社	2,447	書店
	一設計方法と設計主体				
	デザインの鍵	池辺 陽	丸善	3,675	書店
設計計画Ⅲ	建築デザインと環境計画	柏原士郎 編著	朝倉書店	5,040	書店
	場所の空間学	宇杉和夫	古今書院	未定	ガイダンス時に案内
	日本住宅の空間学	宇杉和夫	理工図書	3,200	書店
	事例で読む現代集合住宅のデザイン	日本建築学会	彰国社	2,730	書店
建築史Ⅰ	日本の空間認識と景観構成	宇杉和夫	古今書院	11,200	書店
	見沼田んぼの景観学	宇杉和夫	古今書院	2,600	書店
	日本建築図集	小林文次 他	相模書房	2,625	建築史・建築論研究室 (ガイダンス時に案内)
建築史Ⅱ	日本建築史序説	太田博太郎	彰国社	2,940	書店
	図説 近代建築の系譜	大川三雄 他	彰国社	3,360	建築史・建築論研究室 (ガイダンス時に案内)
建築史Ⅱ、Ⅲ	日本の近代建築(上、下)	藤森照信	岩波新書	各651	書店
	図説 近代日本住宅史	大川三雄 他	鹿島出版会	3,360	書店
	建築モダニズム	大川三雄 他	(株)エクスナレッジ	3,150	書店
	近代和風を探る(上、下)	大川三雄 他	(株)エクスナレッジ	各1,470	書店
建築史Ⅳ	東洋建築史図集	日本建築学会 編	彰国社	3,255	建築史・建築論研究室 (ガイダンス時に案内)
	新建築学大系3 東洋建築史		彰国社	7,088	書店
都市計画Ⅰ、Ⅱ	都市の計画と設計	小嶋勝衛 監修	共立出版	3,465	書店
	都市計画 第3版	日笠 端、日端康雄	共立出版	3,990	書店
	日本近代都市計画の百年	石田頼房	自治体研究社	2,548	書店
	「都市計画」の誕生	渡辺俊一	柏書房	3,670	書店
都市デザイン	都市の計画と設計	小嶋勝衛 監修	共立出版	3,465	書店
	まちづくりデザインのプロセス	日本建築学会 編	丸善	1,995	書店
不動産企画及び演習Ⅰ、Ⅱ 建築企画設計	都市・建築・不動産企画 開発マニュアル	エクスナレッジ編集部	(株)エクスナレッジ	4,935	書店

平成20年度 短期大学部建設学科 履修要項

はじめに

本短期大学部は必要単位を取得することによって卒業が認められるため、どの科目を選択するか（＝履修計画）については各自に自由が与えられるとともに責任が生じる。各々が必要な情報をしっかりと収集し、自分の将来設計を見据えて履修計画を練ることが肝要である。本頁の内容をよく理解し、「学園生活」「時間割」を用いて履修計画を立てること。また、学科で作成している「Navigation for Students 一新入生の手引き」も熟読すること。履修登録や学園生活全般にわたり不明なことがあれば、遠慮することなくクラス担任の諸先生（表1）に相談してほしい。

建設学科における卒業最低条件は、表2に示すように合計62単位（総合科目12単位以上、基礎教育科目7単位以上、専門教育科目36単位（必修:28単位、選択:8単位）以上、科目区分によらない任意の単位7単位以上）を取得しなければならない。これは、短期大学部の教育理念が完成教育を目指したものであり、諸君の勉学が偏ることなく建築全般にわたって学習できるようにしたものである。本稿では履修計画を立てる際に知っておいてほしい諸制度〔成績評価、GPA（グレード・ポイント・アベレージ）制度、履修科目の登録単位数の上限、単位互換制度、科目等履修生制度、学芸員課程、履修コースの選定〕について概説し、さらに、建築デザインと建築実験の受講に際する注意を述べる。

成績表の表記について

GPA制度導入に伴い成績表および成績証明書の表記が変更される。成績表はS、A、B、C、D、N（S:90点以上、A:80点以上、B:70点以上、C:60点以上、D:59点以下、N:認定）と表記される（表3参照）。また、学期GPA、年間GPA、累積GPA（次節参照）が記載される。なお、成績証明書にはD（59点以下）は表記されず、GPAは

累積GPAのみの記載となる。

GPA(グレード・ポイント・アベレージ)制度について

GPA制度は、各自の学修成果を客観的に数値で表したものであり、日頃の学修成果を確認することができる。計算方法は以下の通りである。

- ①各取得科目の成績評価に従い、グレード・ポイントを与える（表3参照）。
- ②各取得科目のグレード・ポイントに単位数を乗じてこれらの総和を取り、履修登録した科目の総単位数で割ったものをGPA（グレード・ポイント・アベレージ）とする（表4・(1)式参照）。表4の例では、 $GPA = 19/9 = 2.11$ となる。

表1 クラス担任

学年	氏名	研究室	電話番号(内線)
1年	羽入 敏樹	船橋校舎 6号館 622・A	047-469-(5263)
	矢代 眞己	船橋校舎 5号館 546・A	047-469-(5819)
2年	黒木二三夫	船橋校舎 9号館 921・B	047-469-(5444)
	田所辰之助	船橋校舎 5号館 545・B	047-469-(5566)

表2 卒業に必要な単位

科目区分	卒業要件単位数	
総合教育科目	12	
基礎教育科目	7	
専門教育科目	必修科目（17科目）	28
	選択科目	8
科目区分によらない任意の単位	7	
総計	62	

表3 成績表上の表記とグレード・ポイント

成績表上の表記	グレード・ポイント	
90点以上	S	4
80点以上	A	3
70点以上	B	2
60点以上	C	1
59点以下	D	0
認定	N	—

$$\text{GPA} = \frac{(\text{科目で得たグレード・ポイント} \times \text{科目の単位数}) \text{の総和}}{\text{履修登録したすべての科目の総単位数}} \quad (1)$$

GPAには学期ごとに履修登録した科目と修得した科目から算出される学期GPAと現在までに履修登録した科目と修得した科目から算出される累積GPAがある。また、GPAの計算に含まれない科目は以下の通りである。

- 1) 履修中止を行った科目
- 2) 卒業に必要な総単位数62単位に含まれない単位(部外単位)
- 3) 理工学部の科目等履修生・教職課程科目の単位

現在、GPAは次に述べる履修科目の登録単位数の上限緩和にも関わるのでよく確認しておく必要がある。

履修科目の登録単位数の上限

学期ごとに履修登録できる単位数には上限が設けられており、1年次前学期は29単位、1年次後学期および2年次前・後学期は25単位となる。また、各年次のサマーセッション(夏季集中授業)とスプリングセッション(春季集中授業)では別枠で、それぞれ6単位を上限に履修登録することができる。

ただし、直前の学期GPA(グレード・ポイント・アベレージ)が2.5以上であり、かつ当該学期での修得単位数のうち卒業要件に参入することのできる単位数が21単位以上であれば、次学期の履修登録の上限は29単位となる。

4月当初の履修計画は、履修する科目の登録単位数の上限を超えないように、かつ所要の科目が履修できないということがないように気をつけること。なお、導入教育科目については、登録単位数としてカウントしない。

単位互換制度

本短期大学部生が日本大学理工学部の開設科目の一部を履修できるという制度である。履修に際しては、どの科目が開講されているか教務課もしくはクラス担任に開設科目を問い合わせ、受講する場合には、指定用紙に科目担当師の承諾印をもらい、教務課に提出する必要がある。なお、単位互換制度によって取得した単位を卒業に必要な単位として算入できるかについてはクラス担任に確認の上、履修登録すること。

科目等履修生制度

科目等履修生制度とは、大学入学資格を有する人が、大

学および短期大学の特定の授業科目を履修することができる制度である。そのため、科目等履修生制度を利用して他学部の講座を受講するためには、教務課またはクラス担任に開講科目、申請要領を確認し、指定期日までに受講申請をしなければならぬ。また受講に際し審査があり、受講許可された科目に対して、指定された授業料を納めることによって受講が可能となる。なお、教職課程科目もこの制度を利用して受講することになる。教職課程科目については別途ガイダンスがあるので、履修希望者は指定された期日に必ずガイダンスに参加すること。

学芸員課程

学芸員とは博物館法第4条第4項「博物館資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これに関する事業についての専門的事項をつかさどる」と定められており、専門職員として博物館などの事業に携わるために必要な資格である。平成17年度より理工学部に学芸員課程が設置された。短期大学部生は理工学部に編入学が決定した者が受講可能となる。学芸員課程については年度初めに「学芸員ガイダンス」が開かれる。希望者はガイダンスに参加すること。

履修コースの選定

建設学科に設置されている建築エンジニアリングコース・建築デザインコース・福祉住環境コースの選定は2年次初めに自由に選択することができる。1年次に建築に関する基礎的な教育科目を履修し、自分が今後どのコースで主に学んでいきたいのか、どのコースに向いているのか、将来の進むべき道を見据えて選択すること。履修コースを選択することにより、おのずと選択必修科目が設定される(表5)。なお、所属コースによらず建設学科設置の専門科目は自由に履修することができる。

必修科目

必修科目は卒業するために必ず取得しなければならない科目のことである。また、1年次に設置してある科目は原則として1年次に受講すること。以下に、建築を学ぶにあたり根幹となる2つの科目群について説明する。

1. ベーシック建築デザイン、建築デザインⅠ・Ⅱ・Ⅲ

建築デザインは建築の総合的表現の修得を目的とするものであるため、長時間の実技的な修練が必要となる。

そのためには、各課題に対し所定の時間に確実に完了し、力量を積み重ねていかなければならない。受講に際し、専用の受講票をガイダンス時に配布するので、所定事項を記入し、顔写真を貼付して提出すること。建築デザインⅠ・Ⅱ・Ⅲでは、課題・中間提出日時・作品提出日時などが記載された「課題集」が配布されるので、すべての課題に対し担当師の指導を毎週受け、課題提出日に作品を完成させて提出しなければならない。また、これら科目は段階制をとっているため、建築デザインⅠを受講するためにはベーシック建築デザインの単位を、建築デザインⅡを受講するためにはベーシック建築デザイン、建築デザインⅠの単位を取得している必要がある。

2. 建築実験Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ

学期はじめに各担当師により詳細な説明が行われる。実験は重複しないようにスケジュールが決定され、ホームルーム（1年次：1112教室、2年次：935教室）に掲示される。すべての実験を所定の日時に受講し、レポートを提出しなければならない。なお、レポートの受理の際には受領書を渡されるので、単位取得が確認できるまで保管しておくこと。やむを得ない理由などにより所定の日時に受講できない場合には、速やかに各実験担当師に申し出て指示を受けること。

表4 GPA算出の例

科目名	単位数	評価	グレード・ポイント	単位数×グレード・ポイント
国語表現法Ⅰ	1	A	3	3
英語講読Ⅰ	1	C	1	1
基礎物理学	2	B	2	4
基礎微積分	2	S	4	8
日本国憲法	2	D	0	0
スポーツⅠ	1	A	3	3
計	9			19

表5 履修コース別選択必修科目

コース別選択必修科目の修得単位数は、専門科目修得単位数に含まれます。他コースの科目でも履修できます。

コース	2年次				履修方法
	前学期	単位	後学期	単位	
建築エンジニアリング	応用力学Ⅱ	2	構造力学演習Ⅲ	1	左記科目より8単位以上を修得する
	応用力学演習Ⅱ	1	建築設備概論	2	
	構造力学演習Ⅱ	1	構造の計画と設計	2	
	建築施工法	2	木構造及び鋼構造	2	
	環境工学Ⅱ	2	耐震防災計画	2	
	鉄筋コンクリート構造	2			
	土質及び基礎構造	2			
建築デザイン	建築史Ⅱ	2	デザイン論	2	左記科目より8単位以上を修得する
	建築法規	2	都市計画概論	2	
	建築計画Ⅱ	2	建築史Ⅰ*	2	
	構造デザイン	2	建築メディアデザイン演習Ⅰ*	1	
	建築メディアデザイン演習Ⅱ	1			
	建築ものづくりワークショップⅡ*	2			
	ベーシック建築計画*	2			
	建築ものづくりワークショップⅠ**	1			
福祉住環境	建築ユニバーサルデザイン論	2	福祉住環境概論	2	左記科目より8単位以上を修得する
	環境工学Ⅱ	2	障害者支援論	2	
	建築ものづくりワークショップⅡ*	2	建築設備概論	2	
	一般構法*	2	人間工学*	2	
	建築ものづくりワークショップⅠ**	1	環境工学Ⅰ*	2	
			建築材料Ⅱ*	2	

*サマーセッション ※1年次設置科目

短期大学部建設学科 専門科目使用教科書並びに参考書

(教科書は太字, その他は主要参考書)

科目名	書名	編著者名・訳者名など	発行所名	定価(税込)	取扱所
建設学スタディ・スキルズ	知的な科学・技術文書の書き方 ー実験レポート作成から学術論文構築までー	中島利勝, 塚本真也	コロナ社	1,995	書店
	演習 知的な科学技術文章の書き方	塚本真也	コロナ社	1,890	書店
ベーシック建築デザイン	建築デザインの製図法から簡単な設計まで	武者英二, 永瀬克己	彰国社	2,369	書店
ベーシック建築計画 建築計画Ⅰ	第3版 コンパクト建築設計資料集	日本建築学会 編	丸善	5,040	書店
建築法規	最新建築基準法令集	オーム社 編	オーム社	1,575	書店
都市計画概論	都市の計画と設計	小嶋勝衛 監修	共立出版	3,465	横内・岡田研究室(1357)
建築史Ⅰ	日本建築図集	小林文次	相模書房	2,625	ガイダンス時に指示
	日本建築史序説	太田博太郎	彰国社	2,940	書店
	中世日本建築工匠史	浜島一成	相模書房	3,360	書店

そのためには、各課題に対し所定の時間に確実に完了し、力量を積み重ねていかなければならない。受講に際し、専用の受講票をガイダンス時に配布するので、所定事項を記入し、顔写真を貼付して提出すること。建築デザインⅠ・Ⅱ・Ⅲでは、課題・中間提出日時・作品提出日時などが記載された「課題集」が配布されるので、すべての課題に対し担当師の指導を毎週受け、課題提出日に作品を完成させて提出しなければならない。また、これら科目は段階制をとっているため、建築デザインⅠを受講するためにはベーシック建築デザインの単位を、建築デザインⅡを受講するためにはベーシック建築デザイン、建築デザインⅠの単位を取得している必要がある。

2. 建築実験Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ

学期はじめに各担当師により詳細な説明が行われる。実験は重複しないようにスケジュールが決定され、ホームルーム（1年次：1112教室、2年次：935教室）に掲示される。すべての実験を所定の日時に受講し、レポートを提出しなければならない。なお、レポートの受理の際には受領書を渡されるので、単位取得が確認できるまで保管しておくこと。やむを得ない理由などにより所定の日時に受講できない場合には、速やかに各実験担当師に申し出て指示を受けること。

表4 GPA算出の例

科目名	単位数	評価	グレード・ポイント	単位数×グレード・ポイント
国語表現法Ⅰ	1	A	3	3
英語講読Ⅰ	1	C	1	1
基礎物理学	2	B	2	4
基礎微積分	2	S	4	8
日本国憲法	2	D	0	0
スポーツⅠ	1	A	3	3
計	9			19

表5 履修コース別選択必修科目

コース別選択必修科目の修得単位数は、専門科目修得単位数に含まれます。他コースの科目でも履修できます。

コース	2年次				履修方法
	前学期	単位	後学期	単位	
建築エンジニアリング	応用力学Ⅱ	2	構造力学演習Ⅲ	1	左記科目より8単位以上を修得する
	応用力学演習Ⅱ	1	建築設備概論	2	
	構造力学演習Ⅱ	1	構造の計画と設計	2	
	建築施工法	2	木構造及び鋼構造	2	
	環境工学Ⅱ	2	耐震防災計画	2	
	鉄筋コンクリート構造	2			
	土質及び基礎構造	2			
建築デザイン	建築史Ⅱ	2	デザイン論	2	左記科目より8単位以上を修得する
	建築法規	2	都市計画概論	2	
	建築計画Ⅱ	2	建築史Ⅰ*	2	
	構造デザイン	2	建築メディアデザイン演習Ⅰ*	1	
	建築メディアデザイン演習Ⅱ	1			
	建築ものづくりワークショップⅡ*	2			
	ベーシック建築計画*	2			
	建築ものづくりワークショップⅠ**	1			
福祉住環境	建築ユニバーサルデザイン論	2	福祉住環境概論	2	左記科目より8単位以上を修得する
	環境工学Ⅱ	2	障害者支援論	2	
	建築ものづくりワークショップⅡ*	2	建築設備概論	2	
	一般構法*	2	人間工学*	2	
	建築ものづくりワークショップⅠ**	1	環境工学Ⅰ*	2	
			建築材料Ⅱ*	2	

*サマーセッション ※1年次設置科目

短期大学部建設学科 専門科目使用教科書並びに参考書

(教科書は太字, その他は主要参考書)

科目名	書名	編著者名・訳者名など	発行所名	定価(税込)	取扱所
建設学スタディ・スキルズ	知的な科学・技術文書の書き方 ー実験レポート作成から学術論文構築までー	中島利勝, 塚本真也	コロナ社	1,995	書店
	演習 知的な科学技術文章の書き方	塚本真也	コロナ社	1,890	書店
ベーシック建築デザイン	建築デザインの製図法から簡単な設計まで	武者英二, 永瀬克己	彰国社	2,369	書店
ベーシック建築計画 建築計画Ⅰ	第3版 コンパクト建築設計資料集	日本建築学会 編	丸善	5,040	書店
建築法規	最新建築基準法令集	オーム社 編	オーム社	1,575	書店
都市計画概論	都市の計画と設計	小嶋勝衛 監修	共立出版	3,465	横内・岡田研究室(1357)
建築史Ⅰ	日本建築図集	小林文次	相模書房	2,625	ガイダンス時に指示
	日本建築史序説	太田博太郎	彰国社	2,940	書店
	中世日本建築工匠史	浜島一成	相模書房	3,360	書店

科目名	書名	編著者名・訳者名など	発行所名	定価(税込)	取扱所
建築史Ⅱ	西洋建築史図集	日本建築学会 編	彰国社	2,415	田所研究室 (545B)
	マトリクスで読む 20世紀の空間デザイン	矢代真己, 田所辰之助, 濱寄良実	彰国社	2,625	田所研究室 (545B)
デザイン論	マトリクスで読む 20世紀の空間デザイン	矢代真己, 田所辰之助, 濱寄良実	彰国社	2,625	田所研究室 (545B)
	図説 近代建築の系譜	大川三雄 他	彰国社	3,360	田所研究室 (545B)
空間デザイン	空間 構造 物語	斎藤公男	彰国社	3,780	黒木研究室 (921B)
	建築構造のしくみ	川口 衛 他	彰国社	2,625	黒木研究室 (921B)
	図解事典 建築のしくみ	建築図解事典編集委員会 編	彰国社	3,990	黒木研究室 (921B)
一般構造	建築の構造システム	平山善吉 監修	理工図書	4,893	内藤研究室 (926B)
木質構造	3階建てまでできる 一記 入式2×4の構造設計入門	鈴木雄司	彰国社	3,150	ガイダンス時に指示
建築材料Ⅰ, Ⅱ	建築材料用教材 第3版	日本建築学会 編	日本建築学会	1,995	建築教室事務室(915)
応用力学Ⅰ, Ⅱ	建築材料力学	榎並 昭	彰国社	2,783	ガイダンス時に指示
	建築応用力学 改訂版	小野 薫, 加藤 渉	共立出版	2,415	ガイダンス時に指示
応用力学演習Ⅰ, Ⅱ	建築応用力学演習	加藤 渉, 榎並 昭	共立出版	2,310	ガイダンス時に指示
	応用力学演習問題解析法	西村敏雄	理工図書	4,935	ガイダンス時に指示
構造力学Ⅰ, Ⅱ	建築構造力学 (上巻)	齋藤謙次	理工図書	2,467	ガイダンス時に指示
構造力学演習Ⅰ, Ⅱ	建築構造力学演習 (上巻)	齋藤謙次	理工図書	1,837	ガイダンス時に指示
構造力学Ⅲ	建築構造力学 (下巻)	齋藤謙次	理工図書	2,467	ガイダンス時に指示
構造力学演習Ⅲ	建築構造力学演習 (下巻)	齋藤謙次	理工図書	1,837	ガイダンス時に指示
鉄筋コンクリート構造	コンクリート構造	本岡順二郎	彰国社	2,835	ガイダンス時に指示
鋼構造	建築鉄骨構造 第2版	松井千明	オーム社	3,360	黒木研究室 (921B)
構造設計法	新版 わかりやすい鉄筋コ ンクリート構造の設計	藤田 幹, 内藤正昭	理工図書	3,570	内藤研究室 (926B)
土質力学及び基礎構造	建築基礎構造設計指針	日本建築学会 編	日本建築学会	5,670	書店
建築施工法	建築生産施工学	毛見虎雄, 逸見義男, 矢野瑞穂	理工図書	4,725	ガイダンス時に指示
	特集 円滑に進めるためのRC 工事のポイント(『建築技術』)		(株)建築技術		書店
ベーシック建築環境	環境教育用教材 学校のなかの地球	日本建築学会 編	日本建築学会	2,100	吉野研究室 (545A)
環境工学Ⅰ	最新 建築環境工学	田中俊六 他	井上書院	3,150	書店
	建築環境工学用教材 環境編	日本建築学会 編	日本建築学会	1,937	書店
	住宅の環境設計データブック	日本建築学会 編	丸善	3,150	書店
環境工学Ⅱ	建築音響と騒音防止計画	木村 翔	彰国社	3,570	羽入研究室 (622A)
	建築環境工学用教材 環境編	日本建築学会 編	日本建築学会	1,937	書店
建築設備概論	建築設備概論	吉田 燦	彰国社	4,200	早川・蜂巣研究室 (577B・578A)
	建築環境工学用教材 設備編	日本建築学会 編	日本建築学会	1,937	書店
福祉住環境概論	福祉住環境コーディネーター 検定試験3級公式テキスト	TAC福祉住環境研究会 編	東京商工会議所検定 事業部検定センター	1,890	ガイダンス時に指示
	福祉住環境コーディネーター 3級過去問題集一発合格	東京商工会議所 編	TAC(株) 出版事業部	1,680	ガイダンス時に指示
人間工学	Ergonomics for beginners	J.Dul and B.Weerdmeester	Taylor&Francis		ガイダンス時に指示
情報処理	はじめて学ぶC言語入門	斎藤奈保子, 渡部由利, 宮本英美	実教出版	2,100	書店
建築メディアデザイン演習Ⅰ, Ⅱ	THE MAYA 5 perfect book	土田 仁	ピー・エヌ・ピー新社	5,250	ガイダンス時に指示
企画経営学概論	都市・建築・不動産・企画 開発マニュアル		(株)エクスナレッジ	5,145	ガイダンス時に指示
海洋建築概論	海と海洋建築	前田久明, 近藤健雄, 増田光一	成山堂	4,830	大塚研究室 (545A)
	海と科学	柳 哲雄	恒星社	1,995	書店
	地球の海と気候	寺本俊彦	御茶ノ水書房	840	書店
建築測量学	実用測量	伊澤倫一郎	理工図書	4,095	ガイダンス時に指示

イギリスとドイツの地域施設・研究所を訪ねて

海外派遣研究員報告 1

渡辺富雄

1. Sportshalle Realschule im Aurain / Bietigheim-Bissingen
ガラス箱のように軽快な学校と地域のためのスポーツホール



海外派遣研究員として、2007年8月1日～同10月26日(86日間)、ヨーロッパに行く大変幸運な機会をいただいた。前半の8月はイギリス、後半の10月はドイツに滞在し、その間の9月の3週間ほど、北欧の3都市(ヘルシンキ、ストックホルム、コペンハーゲン)とスイスを訪ねてきた。

今回の目的は：①地域スポーツ施設と小・中学校などの教育施設がどのように連携しながら計画されているか。主にイギリスやドイツの事例を視察し、できるだけ関係者にヒアリングすること。②スポーツ関連研究所などの訪問と情報収集。③省エネルギーを目指した建築デザインの最新事例の視察(昨年、建築学会から出版された「Solar Architecture Design Book」で最新外国事例の編集を担当したこともあって、それらを実際にこの目で確かめること)。

そして、せっかくの機会なのでアスブルンド、ヤコブセン、アアルトなど、私にとってはじめての北欧近現代建築をぜひ見て来たい、という欲張ったものであった。

準備もそこそこに訪問先の連絡メモだけをもって、スケジュール調整・訪問許可などは現地で行うことにして成田を出発した。最初はロンドンを拠点にし、その後も毎日のようにメールや電話のやり取りで、スケジュール調整については悪戦苦闘の日々が続くことになった。

以下、三つの目的にそって、参考になると思われる建

築を簡単に紹介し、報告とする。

地域施設の計画とデザイン—スポーツ施設を中心に—

シュツットガルトの郊外ビッテンゲン・ビッシンゲンにある中学校のスポーツホールは、学校と地域開放を考慮に入れた建築である。ポリウムを周辺の町並みに合わせてアリーナを一層下げて計画するのは常套手段であるが、建物両サイドは一面ガラスで覆われ、トップライトから入る光と相まって明るい開放的な、美術館のようなシンプルなデザインが印象的であった(写真1)。

ケルンの市民のためのプール、アグリッパは、競泳プール、遊泳・飛び込みプール、ジャグジー、フィットネス系の施設など盛りだくさんの内容で、大変人気があり利用者が多い。更衣室周りのブースの扱い方は日本のように男女更衣室を別々に設ける方法ではなく、更衣ブース・ロッカー方式は大変参考になるものがあった(写真2)。

ミュンヘンの北インゴルスタットの町外れにある肢体不自由児のための学校に併設された小さなスポーツホールとスイミングプールは、古い城塞を再利用したものである。建物の外観はおもちゃ箱のようなむき出しのデザインであるが、スポーツホール、プール、更衣室周りなどの内部はきめの細かい配慮がされている。ハンディキャップをもつ人や高齢者にとって水の浮力を利用した水中での運動は効果的である。かつて私は東京近郊の八



2. Agrippabad / Köln
ケルンの市民プール、屋内・屋外に魅力的なさまざまなプールが設置され、ケルンの人気スポットになっている



3. Sporttätten der Körperbehindertenschule / Ingolstadt
肢体不自由児のための学校のスポーツホール(左)とスイミングプール(右)



4. BISP : Bundesinstitut für Sportwissenschaft / Bonn
連邦スポーツ科学研究所にて、Michael palmen氏(左)・Peter Ott氏(右)と

ンディキャップをもつ人たちのための専用プールの利用観察調査したことがあるが、この学校での半日の利用状況観察は、日本のものと比較して大変参考になった（写真3）。

スポーツ施設関連研究機関

BISP / ポンの連邦スポーツ科学研究所は、旧西ドイツの時代の内務省のビルにある国の研究機関である。全スタッフが20数名の小さなものだが、スポーツに関わる医学や生理学など多角的な研究委託を行っている。ここへは5日間ほど通い、建築の専門家3名からスポーツ建築に関する興味深い研究レポートをいくつか紹介してもらった。ドイツ語はまったくできないので、説明と絵や図から判断するしかないが……（写真4）。

IAKS / ケルンの国際スポーツ施設協会は、IOC（国際オリンピック委員会）とコンタクトをもちながら、スポーツ施設の紹介や普及に取り組んでいる。3日間ほど通い、世界中のスポーツ施設を紹介した機関誌「sb」を中心に主にヨーロッパの最新事例を収集した。事務局は、ケルンスポーツ大学、リニューアされたケルンのサッカースタジアムに隣接している。このスタジアムは、今回いろいろ見た中でも個人的にはドイツのベスト3の中に入る施設ではないだろうか。

LAB / デュッセルドルフの国際水スポーツ・レクリエーション協会では、施設の設計・運営に関する国際会議（ハンブルグ）に参加してきた。その後、ハンブルグから電車で3時間ほどの小さな町に事務所を構えている協会副会長のダン・ヤンセン事務所を訪問し、計画中の新しいプロジェクトの紹介やプール計画・設計上の留意点・ディテールなど、長時間にわたり有意義な情報を得ることができた。

省エネルギーを目指した建築とデザイン

ヘルネ文化研修センターは、歴史的な産業遺産を残し

ながら、自然と共生し地域の再生・活性化を目指したプロジェクト（IBA エムシャーパーク）の一環として建てられた地域の教育文化施設で、大きな集成材のフレームの中に、宿泊、研修施設が含まれたボックスインボックスの巨大な建物である。外側のボックスには透光型モジュールによる太陽光発電装置がきれいなパターンでデザインされている。既に日本でもたびたび紹介されているが、町おこしの一つの好例である（写真5）。

ベディントンのゼロ化石エネルギー住宅団地は、ロンドンの南、下水処理場跡地に計画された住宅団地で、石油、石炭、天然ガスといった化石燃料に一切頼らないで、すべてのエネルギーを再生可能なエネルギー源から得ている。太陽光発電と不要木材チップを原料にして、発熱と発電を同時に行う小型ガス化プラントから供給されている。カラフルな屋根の上の巨大なウインドカル（回転換気塔）は風力を使って換気するシステムで団地の景観を特徴づけている。技術的なシステムを突き詰めていくとこうなるのだろうかという一つの事例として興味深い（写真6）。

今回ガラス建築を多く視察したが、切れ味の良いダブルスキンのデザインという点からみると、GSW 本社ビルを挙げたい。これも既に有名な建築で、高層棟が弓形に湾曲し、90cmのダブルスキンの中に組み込まれた縦型ルーバーの赤・オレンジ・ピンクなどの柔らかい色調が古いベルリンの町並みに不思議と溶け込んでいるのが印象的であった（写真7）。

ここで紹介したものはほんの一部なので、写真・資料などに興味ある人は研究室を訪ねてください。

最後に、長期間にわたっていろいろとご迷惑をおかけした建築教室の皆様はじめ関係者の方々にお礼申し上げます。

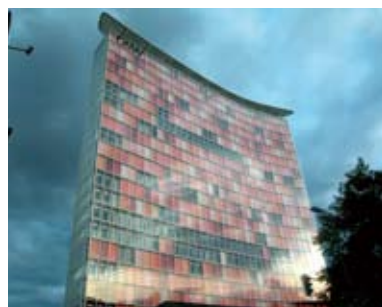
（わたなべとみお・准教授）



5. Mont-Cenis Academy / Herne
間口70m、奥行170m、高さ16mの巨大なボックスの中に宿泊、研修施設などが組み込まれている



6. Beddington Zero Energy Development / London
屋根の上の巨大なウインドカル（回転換気塔）が景観を特徴づけている



7. Headquarters GSW / Berlin
GSW 本社ビル、ダブルスキン内に組み込まれた縦型ルーバーは気候に合わせて可動でき、表情を変える

ヴァナキュラー建築からのメッセージ

海外派遣研究員報告 2

吉野泰子

黄土高原からチベット高原へ

— 10年間、西安建築科技大学と築いた信頼関係 —

悠久の大地、中国の伝統民居に魅せられて10余年、西安建築科技大学の劉加平教授らと培ってきた持続発展可能な近代化をテーマとした日中共同研究が、国連でWorld Habitat Award 2006を受賞し、東北大学との共同研究で、訪ね歩いた北京・西安・重慶・長沙・昆明、ウルムチなどクリモグラフから選定した5つの気候区の代表的集合住宅の実測（各10戸）とアンケート結果（各100件）からエネルギー消費やIAQの実態、将来予測を行った取り組みが日本・中国・韓国建築学会のJAABE Best Paper Award 2005として顕彰されるなど、国際貢献の一翼を担うことができたことは、理工・短大関係各位の深いご理解とご協力の賜物です。故吉田燦、関口克明両先生をはじめ、多数の日中の有能な学生諸氏との学術交流は、10年来脈々と引き継がれており、2008年1月下旬には、西安建築科技大学と商洛学院から交換留学生や上席客員研究員が船橋校舎を来訪され、今夏には、建築学専攻の院生が男女各1名、西安建築科技大学に留学予定と、2007年12月末福田総理が北京大学で講演し強調された、「知的交流」を着実に推進しつつあります。

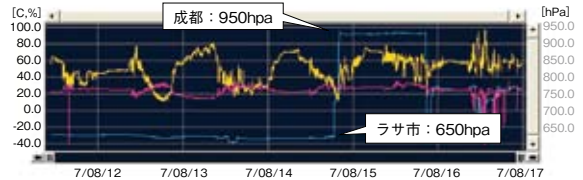
4000～5000万人が暮らす黄土高原の農村の住環境改善に始まった私共の日中共同研究は、2007年夏、中国チベット高原の居住環境特性に応じた新型省エネルギー住宅構想を実現すべく、再度プロジェクトを結成しました。本報告は、その奮闘記であり、その後訪れた世界文化遺産や客家土楼など低環境負荷型土着建築（ヴァナキュラー建築）からのメッセージでもあります。

いざ、チベットへ！—高山病との戦い

2006年7月1日、青藏鉄道の開通を契機とし、チベット地域の経済発展に伴うエネルギー消費の急増が見られることから、サステナブル（持続可能）な居住環境形成技術が要されています。折しも、8月5日から26日の3週間、短期B出張の機会を得、当初1週間をチベットラサ市の集合住宅と伝統民居における日中共同調査に、その後の2週間を世界文化遺産の民居探訪とし、念願の



ラサ空港で劉加平先生（左から2人目）の出迎えを受ける日大チーム6名（8月）



マイクロコスモス客家土楼を訪ねることができました。

当グラフは、8月12日から16日までの期間、私のポシットに忍ばせた、温湿度・気圧データロガーに収録したチベットラサ市内と成都での測定データです。ラサ市は、富士山と同程度の海拔下であることから、気圧は650hPaと低い値を示していますが、8月15日成都入りした時は、950hPaまで上昇していることが解ります。なお、冬季出張時の機内定常状態は、27℃、79%、876hPaでした。夏・冬ともに北京や成都からダイレクトにラサ空港に降り立ったことで、高山病に悩まされることになります。6名中5名が頭痛、発熱、吐き気、鼻血などでダウンし、経験豊富な西安チームが調達した小型酸素ボンベや漢方薬により、症状は薄皮を剥ぐように薄らいでいきました。

冬季出張時は、夏季の経験を生かし、入境前日から、高山病専用漢方薬「紅景天」を現地で購入し服用したことが効果をもたらしましたが、終始苦しんだ者もおります。一時期入院直前だったスタッフも気力で現場に復帰し、1週間の入境許可期間内での日中共同調査を乗り切ったのでした。

チベット高原における新型省エネルギー住宅構想

高原特有の地理環境や気候類型が民族文化と相まって壮麗なチベット民居をつくりあげています。ラサの民居は平屋一戸建式のものもありますが、中庭回廊式二階建てや三階建ても多く見受けられます。漆喰塗りの白壁は、湿気を防ぎ、反射特性を保持します。ラサ市内を巡りしながら、私はチベット建築の美しさの秘密はポタラ宮に象徴される白い壁とパラベット部分の紫紅の帯仕上げに代表されることを直感しました。白は、吉兆を表し、紅色（鉄錆赤土）は、荘厳と権力を象徴するようです。

ラサ市内は、まさにこの2色がベーシックカラーとなり、絶妙なバランスで景観が保持されていることが解ります。この茅葺屋根の切り口は女^{ひめがき}塙といい、チベット建築以外では見られない貴重な特徴であることが判明しました。さらに、門や窓に布を多用していますが、これは装飾的な意味合いと同時に、機能的には木製部を風雨や強い日射から守る役目を担っています。測定結果から、大きな日較差と年較差、強い日射・紫外線強度が確認され、方々で見受けられる太陽光湯沸し光景、テント膜による日射遮蔽など、豊富な太陽エネルギーが期待されるチベット高原特有の光景が展開されています。これらの気候特性を有効活用した、自然エネルギー適用型の住宅開発が期待され、今夏から日中合同調査による屋内外の環境計測を実施するに至りました。その速報を、2007年12月の理工学部学術講演会にて、温熱・空気質・光・紫外線・音・粉塵・アンケート調査・プランニングの特徴と、7件ご報告済みです。当該プロジェクトにより都市と農村住宅のエネルギー使用量の急激な増加抑制と国際貢献、住宅の設計規範（ガイドライン）の提案、ユビキタス発電の住宅への適用、強い日射・紫外線の人体影響と紫外線対策技術の進展など社会貢献が期待されます。

ヴァナキュラー建築からのメッセージ

中国民居は、広大な国土と悠久の歴史の中で、気候風土や民族文化と相まって稀にみる多様性をもっています。

日本の伝統民居で会得した環境形成技術をもとに、ヤオトン、内モンゴル、四合院、チベット、山西省、安徽省、福建省などの民居や客家土楼を訪ね、自然と共生する住まいとは、どのような設計をし、どのような技術を運用すべきか、今回の渡航を総決算とし、実に素直な回答を見出すことができました。それは、「地産地消」にあります。

黒い瓦、白い壁が物静かで、気品のある貴州の書生を育み、宏村の水系は温湿度調整の機能をも果たし、ミクロコスモス（小宇宙）・客家土楼群の心地よい佇まいに見る静かに人々の訪れを待つ光景が人間と水、土、空気、植物、動物など、エコロジーの本質を見つめ直すヒントを授けてくれました。

各地の方形、環形、多重環状の円楼など、稀にみる空間に身を置き会得した、未来の建築が具備すべき低環境



福建省初溪村の土楼群。すべて地元
の素材。景観もおのずと統一される

負荷型環境形成技術のあり方、その原理原則「地産地消」によりエコロジカルな住宅を推奨することで、おのずと統一された街並みが形成されることを確信するに至ったのです。

成熟し安定した環境づくりは、建物の性能と設備システムのバランスをとることも欠かせないポイントとなりますが、常に変動している自然環境を遮断し、エネルギーに依存して人工気候を作るのではなく、自然の持つ潜在的な力を引き出し、建物の設計に反映させようとする発想を前提とした取り組みが推奨されるべきでしょう。太陽熱・光・風などの自然エネルギー利用だけでなく、多様な生物との共存も然り。住民が自ら環境の世話をし、維持できるようなシステムを構築し、世代を超え伝承される環境保全のノウハウを蓄積することが重要となるのです。

ここで、今冬体験したラサ市郊外の典型的なチベット民居で展開されている農民のsustainableな生活をご紹介します。添付写真はその一例ですが、太陽光で湯を沸し、厳冬の屋外で保存食のスペアリブを作り、調理は暖房と併用のストーブを使用し、家族団らんを計りながら、燃料の蒔と乾燥した牛糞で火力を調整し、主が巧みに調理し、残飯は家畜のえさ、牛糞は外壁にはりつけ乾燥し再び燃料へ、とエコライフそのものです。照明とテレビ以外の家電製品は見受けられず、敷地内に人と家畜が共存する環境下では、夏季実施したラサ市内の高級民居の音環境や空気質、粉塵量測定結果とまったく様相が異なりました。

環境の質が問われ、技術が選択できる時代です。さて、貴方はどのような環境を選択されますか？

動画も撮影してきました。興味のある方は、遠慮なく研究室をお訪ねください。

最後に、本報告は、夏季渡中が理工学部短期B派遣、冬季出張はトステム財団の助成を頂きました。記して謝意を表します。
(よしのやすこ・教授)



ラサ市内チベット民居



強い太陽光を利用した湯沸かし器



農村の伝統民居、残飯が牛の飼料



外壁で牛糞を乾燥し燃料に利用

平成19年度 各賞受賞者一覧

優等賞*1 (学部・短期大学部)

高橋 斎章
 永山 紗希
 長瀬 悦子
 安達 一喜

山田 泰宏
 水野 佑理
 梅原 智洋
 鈴木枝里子

辻 紗矢香
 野本 圭祐 (短期大学部)
 佐藤 嵩 (短期大学部)
 長島あかり (短期大学部)

齋藤賞*2 (大学院)

- 〈修士論文〉 宮崎 紘光 繊維補強モルタルを用いた耐震補強接合部の性能評価実験 指導：白井伸明教授
 長谷川絢子 リターンバイパス方式を採用したホールの壁式置換空調の設計法に関する研究
 一実測による温熱・空気質特性の評価とCFD解析による境界領域高さの検討一 指導：早川 眞教授

吉田鉄郎賞*3 (大学院)

- 〈修士論文〉 高木 愛子 日本建築学会の保存活動に関する一考察 一保存要望書の事例にみる成果と問題点一 指導：片桐正夫教授、大川三雄准教授
 〈修士設計〉 石川 直史 旧鎌倉市街地の修景計画 一外部空間の分節・結合と配置形式からみた個別建替えシステムの構築及び開放系住宅群の設計一 指導：横河 健教授
 須賀 博之 横浜市磯子浜マーケット再生計画 一地域生活延長型コミュニティ施設としての自然発生的商店街の再構築一 指導：今村雅樹教授

駿建賞*4 (大学院)

- 〈修士論文〉 稲毛 大輔 複数のカーディオイドマイクを用いた音響インテンシティ計測手法 一音源の方向探査および距離計測への応用一 指導：関口克明教授、羽入敏樹短大准教授
 伊藤 真理 中村鎮の建築思想と作品に関する研究 一教会建築を中心とする考察一 指導：片桐正夫教授、大川三雄准教授
 〈修士設計〉 漆間 陽子 「地域教育プラットフォーム構想」に対応した小学校の設計 一港区芝浦港南地区における幼保小連携への提案一 指導：本杉省三教授、佐藤慎也助教
 加藤 暢 旧万世橋駅に立つ都市型ゴミ処理中継基地の設計 一NIMBY建築のケーススタディー 指導：佐藤光彦准教授、山中新太郎助教
 朔 永吉 上野公園芸術文化フォーラム 一東京都美術館を活用した芸術文化活動支援施設の設計一 指導：佐藤光彦准教授
 前田 有一 商店街と共存する地域開放型中学校の設計 一北区赤羽東地区における岩淵中学校建替え計画を通して一 指導：本杉省三教授

駿構賞*5 (大学院)

- 〈修士論文〉 水野 公義 ETFEフィルムの張力膜構造への適用性に関する基礎的研究 一ばねストラット式張力膜構造の有効性について一 指導：齋藤公男教授、岡田 章教授
 田口 智也 オンライン応答実験による建物と地盤の動的相互作用に関する研究 一入力地震動が液状化地盤の動的相互作用に与える影響一 指導：安達俊夫教授

桜建賞*6 (学部・短期大学部)

- 〈卒業研究〉 辻 紗矢香 認知症高齢者グループホームにおける座席配置から考察した建築計画に関する研究 指導：八藤後 猛専任講師
 大久保徳朗・小山 翔・牧 良太 DM(ダイナミック・マス)要素を利用したBMDシステムに関する基礎的研究 一BMD設計法の構築と実験による検証一 指導：石丸辰治教授、古橋 剛准教授
 水野 佑理・山田 達也 メンブレン式切頂20面体ドームの施工法の提案と構造特性に関する基礎的研究 指導：齋藤公男教授、岡田 章教授
 伊沢 佑・櫻井 久巳 照明色の影響を考慮した色盲見え予測プログラム開発 指導：関口克明教授
 市村美奈子・上野美佳子・柳澤 優行 多様な主体の連携によるまちづくり活動の展開に関する研究 一栃木県栃木市における歴史的建造物を活かしたまちづくりを事例として一 指導：根上彰生教授
 〈卒業設計〉 北川 健太 GROUNDATION Ohashi Re:Redevelopment project 指導：佐藤光彦准教授

〈短期大学部〉 針谷 未花 谷中路地マチ 一どのミチゆこう一
卒業制作) 保坂 裕梨 都市温帯 一LOHAS集落と地域コミュニティー

指導：小石川正男短大教授、田所辰之助短大准教授
指導：小石川正男短大教授、矢代真己短大准教授

企画奨励賞*7 (学部企画経営コース)

渡邊 翼 地方都市の交通ターミナルを核とした回遊拠点としての市街地再開発計画
一静岡市葵区鷹匠1丁目地区を対象に一

指導：企画経営コース専任教員

奨励賞*8 (大学院・学部)

〈修士論文〉 石森 昭行 画像計測法を用いた変位およびひび割れ幅計測結果に基づく
鉄筋コンクリート造柱部材の残存耐震性能評価

指導：白井伸明教授

関根 嘉昭 ノイズ音場における音声聴取性能改善のための拡声音制御法と実音場への適用方法の検討

指導：井上勝夫教授、橋本 修准教授

山部なつ紀 都市部における高齢者層の今後の居住形態志向に関する研究

指導：根上彰生教授、八藤後 猛専任講師

〈卒業設計〉 古澤 修一 支え合うエリンギ 一歌舞伎町の猥雑環境に新しい暮らし方をする都心居住の提案一

指導：今村雅樹教授

駿建コンペティション業績賞*9 (大学院)

須賀 博之

今村研究室

桜工賞*10 (大学院・学部・短期大学部)

〈大学院〉 小関 恒司 「ユニオン造形デザイン賞」(主催：ユニオン)にて佳作受賞

今村研究室

小林 彩 国立科学博物館における体験学習支援のボランティア活動への貢献

井上研究室

國眼 一成・松波 圭亮・小島 基〈学部〉

「水没コンペ 日本列島、一部、沈没。」

(主催：第29回日本文化デザイン会議2007兵庫実行委員会)にて入賞 國眼・松波：今村研究室、小島：渡辺研究室

〈学部〉 中野 文恵 障害者のリハビリテーション補助活動への貢献

井上研究室

濱名 修悟・和田慎太郎

「府中インターユニバーシティ2007」(主催：府中建築文化フォーラム)にて

特別賞「府中建築文化フォーラム賞」受賞

宇杉研究室

堀場 勇太・山田 達也・長瀬 悦子

2007年度建築学科アルバム委員としての貢献

斎藤、岡田研究室

松本 隆 「シェルター学生設計競技2007」(主催：シェルター)にて優秀賞受賞

今村研究室

渡邊 翼 青駿祭における展示「建築展」実行委員長としての貢献

都市計画研究室

〈短期大学部〉 北 真義 クラス幹事代表としての貢献

短期大学部

中村 杏子 推薦入学試験および入学前オリエンテーションにおけるボランティア活動への貢献

短期大学部

不動産科学専攻研究奨励賞*11 (大学院不動産科学専攻)

松本真奈美 まちづくりにおける臨港地区の今後の位置づけに関する研究 一主要5港の運用実態を中心として一

指導：横内憲久教授、岡田智秀専任講師(兼担)

日本環境管理学会・木村賞*12 (大学院不動産科学専攻)

田代 晴大 指定管理者制度による管理運営の実態とその方策に関する研究 一横浜市を対象として一

指導：三橋博己教授

*1 学部4年間および短期大学部2年間の学業成績が優秀であった学生に対し、日本大学より授与。

*2 大学院博士前期課程の環境系および構造系分野の優れた研究論文に対し、齋藤賞基金に基づき、桜門建築会より授与。

本学の中興の祖と呼ぶべき齋藤謙次先生の業績を記念して設けられた。齋藤賞基金は、齋藤謙次先生の寄金を元に設立、佐藤雄雄、榎並昭各先生の寄金を追加。

*3 大学院博士前期課程の設計・計画系分野の優れた研究論文および設計作品に対し、駿建賞基金に基づき、建築学科教室より授与。

戦後復興期において本学の設計教育の礎を築かれた建築家であり、かつ日本の建築文化に関する優れた論考を残された吉田鉄郎先生の業績を記念して命名された。

駿建賞基金は、小林文次、宮川英二、近江栄、小谷喬之助、木村翔、若色峰郎各先生の寄金による。

*4 大学院博士前期課程の環境系および設計・計画系の優れた研究論文および設計作品に対し、駿建賞基金に基づき、建築学科教室より授与。駿建賞基金については*3参照。

*5 大学院博士前期課程の構造系分野の優れた研究論文に対し、駿構賞基金に基づき、建築学科教室より授与。

駿構賞基金は、本岡順二郎、榎並昭各先生からの寄金を元に設立、構造系教授の寄金を追加。

*6 学部の優れた卒業研究論文および卒業設計作品に対し、桜門建築会より授与。

*7 企画経営コースの優れた卒業企画設計作品に対し、企画経営コース同窓会より授与。

*8 大学院博士前期課程の優れた研究論文および学部の優れた卒業設計作品に対し、理工学部校友会からの寄金に基づき、建築学科教室より授与。

*9 設計競技で優秀な成績を残した大学院博士前期課程の学生に対し、駿建賞基金に基づき、建築学科教室より授与。近江栄先生の発案により設立。駿建賞基金については*3参照。

*10 学業以外で社会的に活躍した学生に対し、理工学部校友会より授与。

*11 大学院博士前期課程不動産科学専攻の優れた研究論文に対し、不動産科学専攻より授与。大学院不動産科学専攻専任教員、佐藤進、浅香勝輔各先生の基金による。

*12 大学院博士前期課程不動産科学専攻の優れた研究論文に対し、不動産科学専攻より授与。日本環境管理学会名誉会長木村宏先生の基金による。

平成19年度 博士論文 修士論文・設計 タイトル一覧

大学院博士後期課程

主査：関口克明教授，副査：井上勝夫教授・伊藤洋一教授(電気工学科)・羽入敏樹(短大)准教授 —— 建築学専攻
星 和磨 室内音響設計支援のための楕円フーリエ記述子に基づく室形状の解析

主査：根上彰生教授，副査：三橋博巳教授・横内憲久教授・秋山 宏教授(研究所) —— 不動産科学専攻
吾守尔齋藤古力 中国・新疆ウイグル自治区における伝統的生活様式を活かした景観形成に関する研究

大学院博士前期課程

井上勝夫教授・橋本 修准教授 —— 建築学専攻

大室 諒知 集合住宅における重量床衝撃音遮断性能の生活実感による表現方法の検討

小林 彩 講演空間における話者からみた室内音響の性能評価法に関する研究

関根 嘉昭 ノイズ音場における音声聴取性能改善のための拡声音制御法と実音場への適用方法の検討

野村 奈央 住宅の音環境トラブルの発生原因と司法判断に関する考察

渡邊香保里 住宅の床構造変化と歩行時のかたさ感覚に関する実験的研究

関口克明教授・羽入敏樹(短大)准教授 —— 建築学専攻

稲毛 大輔 複数のカーディオイドマイクを用いた音響インテンシティ計測手法 —音源の方向探査および距離計測への応用—

生方 秀行 歌唱者が演奏空間において知覚する音像と反射音の関係

堀尾 貞治 散乱体と壁面を組み合わせた音響反射メカニズム

早川 眞教授・蜂巢浩生専任講師 —— 建築学専攻

長谷川絢子 リターンバイパス方式を採用したホールの壁式置換空調の設計法に関する研究
—実測による温熱・空気質特性の評価とCFD解析による境界領域高さの検討—

安達俊夫教授・山田雅一助教 —— 建築学専攻

田口 智也 オンライン応答実験による建物と地盤の動的相互作用に関する研究
—入力地震動が液状化地盤の動的相互作用に与える影響—

斎藤公男教授・岡田 章教授 —— 建築学専攻

大森 慎司 ガラス吊屋根構造の構造特性に関する基礎的研究 —風荷重時の構造挙動について—

柴山 裕則 ケーブル端部金物の設計手法に関する基礎的研究
—アイエンド金物とフォークエンド金物の耐力に関する実験的研究—

高橋 厚人 スtring式環状片持架構の構造特性に関する基礎的研究

玉川 悠貴 木質プリベンディング・サスペンアーチ構造の構造特性に関する基礎的研究

永井 佑季 連結したホルン型張力膜屋根に関する基礎的研究
—風荷重の評価および膜面の支持方式が風荷重時の構造挙動に及ぼす影響—

藤川 英哲 張弦シザース構造の壁面構造体への適用性に関する基礎的研究

藤木 瑛子 構造デザインの潮流と現況 —空間構造におけるイメージとテクノロジー—

水野 公義 ETFEフィルムの張力膜構造への適用性に関する基礎的研究 —ばねストラット式張力膜構造の有効性について—

森山 卓也 膜材を付加した切頂20面体の基本的構造特性に関する研究 —膜材付加の効果と仮設空間への適用性—

白井伸明教授		建築学専攻
石森 昭行	画像計測法を用いた変位およびびびり割れ幅計測結果に基づく鉄筋コンクリート造柱部材の残存耐震性能評価	
橋本 浩	地震動を受けるRC造偏心骨組の3次元FEMによる弾塑性ねじれ挙動の評価	
宮崎 純光	繊維補強モルタルを用いた耐震補強接合部の性能評価実験	
半貫敏夫教授		建築学専攻
桑野 克彰	高床構造の充実率を変数とした高床式建物周囲の吹きだまり性状に関する研究	
三橋博巳教授		建築学専攻
永木 毅	南極昭和基地における雪の吹きだまりに関する研究 ―吹雪風洞実験による防雪柵の効果について―	
今村雅樹教授		建築学専攻
伊達由紀子	都心型民間集合住宅に付属する子育て支援施設の経年変化に関する研究 ―持続的に利用されるキッズルームと託児施設に関する考察―	
石渡 寛	複合型地域施設としての区立桃花小学校の設計 ―中野の小学校区再編に伴うオープンスクールの計画―	
今田 明宏	学区統廃合による「地域センター」としての中学校の設計 ―教科教室型を活かした世田谷区太子堂中学校の計画―	
國眼 一成	地場産業活性化を目指した研究開発型産業支援施設の計画 ―ファッション関連産業を軸とした台東区産業振興プラザの設計―	
小関 恒司	国際教育特区における都市開放型中学校の計画 ―赤坂ラーニングセンターを複合した区立赤坂中学校の設計―	
須賀 博之	横浜市磯子浜マーケット再生計画 ―地域生活延長型コミュニティ施設としての自然発生的商店街の再構築―	
松波 圭亮	地域文化を核とした社会教育拠点となる都市型地域施設の計画 ―新宿区戸塚地域における染色文化芸術館の設計―	
三好 礼益	地域及び広域交流に対応したロードサイド型ショッピングセンターの設計 ―千葉市蘇我臨海地区スポーツ・文化交流促進計画―	
山田健太郎	多摩川台公園エコミュージアム計画 ―地域遺産を活かした地域・自然学習の拠点施設の設計―	
横河 健教授		建築学専攻
倉沢 健一	中野区公共複合施設の設計 ―体育館・図書館・文化活動施設の複合による地域施設の提案―	
新井 匠	市役所を中心とした複合的タウンセンターの設計 ―地域活動拠点・地域学習拠点となる公共施設の提案―	
石川 直史	旧鎌倉市街地の修景計画 ―外部空間の分節・結合と配置形式からみた個別建替えシステムの構築及び開放系住宅群の設計―	
伊藤 甫	関原不動商店街再生 ―地域社会と結びついた高齢者の街なか居住の提案―	
木下 拓也	総合学習図書館の設計 ―千葉県花見川区における児童館を内包した地域学習施設を担う公共図書館の提案―	
原田 創一	辰巳団地再生計画 ―地域活動拠点となる小学校を内包した持続可能な団地の提案―	
安元 直紀	国立療養所多磨全生園における医療福祉環境の計画 ―地域型ネットワークを内包する公園を基盤とした地域活動・福祉施設の設計―	
山田 修爾	井の頭自然文化園キャンパス化計画 ―地域の学習施設、情報装置としての動物園の再構築―	
佐藤光彦准教授		建築学専攻
朔 永吉	上野公園芸術文化フォーラム ―東京都美術館を活用した芸術文化活動支援施設の設計―	
山田 洋平	新宿駅西口広場再構築計画 ―知的活動結節点としての駅前広場の設計―	
佐藤光彦准教授・山中新太郎助教		建築学専攻
加藤 暢	旧万世橋駅に立つ都市型ゴミ処理中継基地の設計 ―NIMBY建築のケーススタディー―	

本杉省三教授 _____ 建築学専攻

- 河地 希美 小学校を核として地域コミュニティと連携する子育て支援環境の提案 —杉並第一小学校の設計を通して—
西内 雄紀 東京湾漁業活動拠点の設計 —漁業と研究機関の協同による水産アメニティ施設の提案—
西川 幸宏 根岸リタイアメント・コミュニティの設計
前田 有一 商店街と共存する地域開放型中学校の設計 —北区赤羽東地区における岩淵中学校建替え計画を通して—
渡辺 真元 トーキョーアートスクール —創造活動拠点としての芸術高等専門学校の設計—

本杉省三教授・佐藤慎也助教 _____ 建築学専攻

- 漆間 陽子 「地域教育プラットフォーム構想」に対応した小学校の設計 —港区芝浦港南地区における幼保小連携への提案—
片岡 愛 三番瀬環境学習拠点の設計

井上勝夫教授・八藤後 猛専任講師 _____ 建築学専攻

- 笠井 琢 小学校余剰教室の学校外用途へ転用するための建築計画に関する研究

関口克明教授・八藤後 猛専任講師 _____ 建築学専攻

- 河内麻美子 病院における子どもの利用を考慮した外来待合空間の建築計画に関する研究
山田 弘明 電動車いすの住宅内移動に必要な設計寸法に関する研究

根上彰生教授・八藤後 猛専任講師 _____ 建築学専攻

- 山部なつ紀 都市部における高齢者層の今後の居住形態志向に関する研究

片桐正夫教授・大川三雄准教授・重枝 豊准教授 _____ 建築学専攻

- 伊藤 真理 中村鎮の建築思想と作品に関する研究 —教会建築を中心とする考察—
三枝 一義 施療院建築の基本構成とその類型に関する基礎的研究 —アンコール王都内と王道沿いの遺構を対象として—
高木 愛子 日本建築学会の保存活動に関する一考察 —保存要望書の事例にみる成果と問題点—
永松 大作 アンコール王朝時代の宿駅建築の設計方針に関する研究 —11世紀から13世紀のBルートの遺構を中心として—

小嶋勝衛教授・根上彰生教授・宇於崎勝也准教授・川島和彦専任講師 _____ 建築学専攻

- 岩田 知久 ライトアップされた建築物ファサードからみた商業地の夜間景観に関する研究
—東京都中央区銀座中央通りを対象として—
杉山 遥佳 都市景観を構成する色彩規制・誘導の実態に関する研究 —地方公共団体の「色彩ガイドライン」に着目して—

小嶋勝衛教授・根上彰生教授・宇於崎勝也准教授・川島和彦専任講師 _____ 不動産科学専攻

- 遠藤 哲也 福祉のまちづくりにおける一体的バリアフリー整備の推進に関する研究 —神奈川県横浜市を対象として—
本間 章久 江戸後期における不動産の評価に関する研究 —日本橋地区を対象として—

三橋博巳教授 _____ 不動産科学専攻

- 田代 晴大 指定管理者制度による管理運営の実態とその方策に関する研究 —横浜市を対象として—

横内憲久教授 _____ 不動産科学専攻

- 照沼 博康 日本映画にみる海の風景の意味とその空間構成に関する研究
松本真奈美 まちづくりにおける臨港地区の今後の位置づけに関する研究 —主要5港の運用実態を中心として—

平成19年度 卒業研究・設計 タイトル一覧

学部

井上勝夫教授・橋本 修准教授・富田隆太助手

井田 啓介・松田 貴

建築物の床振動を対象とした評価方法に関する研究

遠藤久美子・岡村 衣真・中野 文恵

駅構内における視覚障害者の歩行時に利用する知覚情報についての分析

大平 和彦・土屋美寿恵・梁島 康宏・新津 悟

ノイズ音場における拡声音制御法の実音場への適用に関する検討

佐藤 稔也・塩野 耕太・西野由希子

講演時における話者の「話しにくさ」改善に影響する自声の返り音の検討

澤田 嘉夫・張谷 一人・正岡 樂人

集合住宅の音環境に対する生活実感に関する研究

島崎 安規・松永 智弘

夏季における公園緑地周辺の温熱環境に関する実験的研究

鈴木 雅彦・平野 涼太・横井 雅紀

幼稚園の主要空間における音環境の実態調査に関する研究

関谷 美沙・高橋 菜美・中込 彩

消費者からみた住宅の音環境における問題の現状

野田 裕太・森 賢太

乾式二重床における重量床衝撃音発生系の検討

山梨 絵美 版内における振動特性及び振動伝搬の時間特性

向山 咲・山本 啓太

住宅床歩行時のかたさ感覚に関する研究



関口克明教授・吉野泰子(短大)教授・羽入敏樹(短大)准教授

伊澤 博希 アンケート調査から見る日本と海外における住宅光環境の現状

伊沢 佑・櫻井 久巳

照明色の影響を考慮した色盲見え予測プログラム開発

西村 俊弥・福田 孝裕

調剤薬局の服薬指導におけるマスキング音によるプライバシー保護

原 紘美 内装のテクスチャーと照明手法が求める明るさ感に与える影響

府金 稔 円形劇場における音響特性のシミュレーションによる検討 円形劇場はなぜ響くのか

山本健太郎・来栖 真弓

演奏空間への適用を目的とした高密度散乱体を用いた残響箱に関する基本的検討

永山 紗希 分かりやすい騒音レベル表示装置のための騒音レベルと色の対応性に関する研究

萩 竜一 カーディオイドマイクシステムを用いた都市騒音の到来方向検出

渡邊 亜美・田中 陽

情報量の多い街路における景観のまとまりに関する研究

濱野 恵美 室外の空間構成が室内照度に与える影響

津幡 あき 中国チベット高原における環境適応型住宅に向けた実態調査 その1 住環境に関するアンケート調査結果

野田亜友美 中国チベット高原における環境適応型住宅に向けた実態調査 その2 屋外における日射・紫外線強度の測定結果

大西 好将 中国チベット高原における環境適応型住宅に向けた実態調査 その3 照度測定結果と今後の展望



- 今村 恒太 中国チベット高原における環境適応型住宅に向けた実態調査 その4 住戸内外における温熱環境の調査結果
- 橋本瑠衣子 中国チベット高原における環境適応型住宅に向けた実態調査
その5 住戸内外の空気環境・粉塵量・音環境測定結果
- 木下 亮佑 中国チベット高原における環境適応型住宅に向けた実態調査
その6 都市部集合住宅と農村部伝統民居のプランニングとその特徴

早川 眞教授・蜂巢浩生専任講師

大山 昂 7号館氷蓄熱システムの効率向上に関する実験的研究

柏山 崇・小藤田志乃

壁面線後退した容積率緩和の高層建物が街路空気質に及ぼす影響に関する研究

工藤竜太郎・鈴木 敦郎

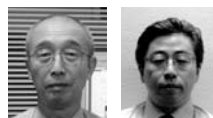
高層建物への自然換気の導入条件の研究 —2006年の大気汚染質の鉛直分布—

小磯 智春 高層建築の自然換気のための壁面風圧均等化に関する研究

関 慶尚 リターンバイパス方式をもつ壁面置換空調の温熱・空気質特性 その1 濃度境界面の位置の検討

金丸 真梨 リターンバイパス方式をもつ壁面置換空調の温熱・空気質特性 その2 温熱環境及びアンケート調査結果

関 圭一 9号館ビル用マルチ空調機の運転効率向上に関する研究



安達俊夫教授・山田雅一助教

麻生希多生・金澤 貴世

ベンダーエレメントを装着した中空ねじりせん断試験装置の開発

石橋 佑太 長期材齢におけるセメント改良砂の強度・変形特性に関する実験的研究

—ねじりせん断強度と残留強度の評価方法—

市原 史郎・糸井川 瞬

首都圏における擁壁の実態調査

刈込 夏子・吉川 隆史

アルミ棒積層体を用いた地盤模型の実験的研究

軽部 宏紀・本山 和磨

オンライン応答実験による建物と地盤の動的相互作用に関する実験的研究

—液化地盤における地震波の周期特性が動的相互作用に与える影響—

杉山 博則・山崎 正美

山留め壁に作用する土圧—変位関係に関する実験的研究 —単調載荷・除荷時における土圧—変位関係—

中山 雄貴 粘性土改良土の強度・変形特性に関する実験的研究 —軸圧縮強度の評価方法—

前田 亮 セメント改良土の強度・変形特性に関する実験的研究 —セメント改良砂の引張強度特性と降伏特性—

山内 一洋 学校施設における地震災害時の情報伝達の確保に関する研究 —アンケート調査結果に基づく考察—

池澤 翼 ベンダーエレメントを装着した三軸試験装置の開発



石丸辰治教授・古橋 剛准教授

大久保徳朗・小山 翔・牧 良太

DM (ダイナミック・マス) 要素を利用したBMDシステムに関する基礎的研究

—BMD設計法の構築と実験による検証—

小林 宏光 新潟県中越沖地震による伝統的木造建築物の被害調査について

その1 柏崎市内における社寺建築物の被害について

大野 勝亮 新潟県中越沖地震による伝統的木造建築物の被害調査について

その2 中越及び中越沖地震を受けた伝統木造建築物の被害比較

鈴木 学 DMVダンパーを用いたトグル制震装置の基礎的研究 —ダイナミックマスダンパーの取付剛性の影響について—



- 高橋 斎章 地震被害速報配信システムに関する研究 ―地震被害推定とデータベース―
 三上 淳治 D.M.ダンパーを含むフレームのモーダルアナリシス ―構造計画の援用としてのプログラム開発―

齋藤公男教授・岡田 章教授



- 荒井茉莉子 模型実験による樹木構造の基礎的研究
 大川 誠治 Structural Skinと中央コアによる展望施設の提案
 落合 涼子 テンション構造のフォークエンド金物に関する実験的研究 ―光弾性実験による解析手法の提案―
 櫻本 高章 室内型張弦シザーズのPSと形状の関係においての実験的研究
 萱沼 美紀 張弦シザーズ構造の活用による更なる社会貢献の提案
 近藤あかり 張弦アンブレラの力学特性に関する基礎的研究 ―風荷重時、雪荷重時の基本的力学特性の把握―
 篠崎 淳 ガラス吊屋根構造の空力特性に関する基礎的研究
 ―ガラスに発生する応力を低減させる提案とその有効性についての検討―
 鈴木枝里子 建築構造教育における現状と取り組み ―空間構造デザイン研究室の教育方法を通して―
 長瀬 悦子 張弦シザーズ構造の壁面への適用性に関する実験的研究
 橋本 明子 格子状シェル曲面の構造特性に関する基礎的研究 ―テーブルへの適用とその補剛方法―
 福田 隆徳 連結型のホルン型張力膜屋根の風荷重に関する基礎的研究 ―柔模型による風洞実験―
 堀場 勇太 ETFEフィルムを用いた張力膜構造の補剛方法における基礎的研究
 水野 佑理・山田 達也
 メンブレン式切頂20面体ドームの施工法の提案と構造特性に関する基礎的研究
 梅原 智洋 発泡アルミニウムの建築構造部材への適用に関する基礎的研究
 荻原 茉里・鈴木 千明
 2つのベクトルからみた建築の流れに関する研究
 蓮沼 優子 ハニカム構造を利用したヴォールト形状における補剛法の提案 ―Paper structureによる実験的研究―
 水垣 愛弓 ホルン型張力膜構造の曲面形成に関する研究 ―模型実験による簡易裁断方法の提案―

白井伸明教授・田嶋和樹助手



- 小川 真紀 鉄筋コンクリート造建物のねじれ挙動の評価法に関する文献調査
 荻原 怜史 鉄筋コンクリート造校舎建築物の耐震性能に関する研究
 (その1) 第2種構造要素の検討と極脆性柱
 吉井 正人 鉄筋コンクリート造校舎建築物の耐震性能に関する研究 (その2) 耐震補強優先度判定方法(案)
 加藤 淳一 RC柱部材の残存耐震性能評価に関する研究
 (その1) デジタルカメラを用いた測定点間距離計測手法の提案と精度の検証
 中村憲一郎 RC柱部材の残存耐震性能評価に関する研究 (その2) RC柱部材の変形成成分分離手法の提案
 福田 豊 RC柱部材の残存耐震性能評価に関する研究 (その3) ひび割れ幅による変形成分推定モデルの検証
 難波 洋史 RC柱部材の残存耐震性能評価に関する研究 (その4) 抜け出し量算出モデルの提案
 尾崎 英介 RC柱部材の残存耐震性能評価に関する研究
 (その5) 曲げ降伏後せん断破壊するRC柱の弾塑性挙動に関する解析的検討
 金子 正太 RC梁のねじれ挙動に関する3次元FEM解析
 椎田 宗樹 建築物の地震被害リスク評価に関する国内外の動向調査
 大竹美智子 3次元FEM解析による偏心を有するRC造柱梁接合部の解析モデルの確立
 (その1) 無偏心接合部における基本モデルの提案
 安達 一喜 3次元FEM解析による偏心を有するRC造柱梁接合部の解析モデルの確立
 (その2) 偏心接合部の標準モデルの提案および再現性の確認
 菅原 将人 グラウト代替材としての繊維補強モルタルの開発 (その1) 圧縮強度及び割裂引張強度に関する検討

- 岩野 泰丈 グラウト代替材としての繊維補強モルタルの開発 (その2) 引張破壊及び圧縮破壊エネルギーに関する検討
- 井上 篤 グラウト代替材としての繊維補強モルタルの開発
(その3) コンクリート—繊維補強モルタル間におけるせん断挙動
- 織田 憲和 グラウト代替材としての繊維補強モルタルの開発
(その4) 鋼と繊維補強モルタル接合面の付着特性に関する研究
- 國本 拓也 グラウト代替材としての繊維補強モルタルの開発
(その5) コンクリート打継ぎ面におけるせん断挙動の解析的研究

中田善久准教授

- 熊本 直輝 吸水速度に基づく高強度コンクリートの調合・強度の推定に関する研究
- 倉持 崇司 鉄筋コンクリート造における型枠工場のエコ評価に関する研究
—型枠の種類の違いがCO₂排出量に及ぼす影響—
- 小林 直登 構造体コンクリートにおける補修・改修材料選定システムの構築に関する研究
- 坂本 亮 溶融スラグ細骨材を用いた実大構造物および寒冷・塩害地域に屋外暴露したコンクリートの長期性状に関する検討
- 高橋 和哉 コア採取方法の各種要因が模擬柱部材のコア強度に及ぼす影響
—採取位置および採取方向がコア強度に及ぼす影響—
- 高橋 祐基 戻りコンクリートを再利用したポンプ圧送用先送りモルタルの実用化に関する研究
—練り混ぜ水、環境温度、練混ぜからの経過時間および化学混和剤の種類が再生モルタルの凝結遅延性に及ぼす影響—
- 田村 裕介 調合要因が各種セメントを用いた高強度コンクリートの諸性質に及ぼす影響
- 松原 北斗 圧入工法による鋼管充填コンクリートの品質に関する文献的検討
- 渡辺 優樹 画像解析によるコンクリート表面の色むらの評価に関する基礎的研究



半貫敏夫教授

- 小池 雅紀 既存木造住宅の耐震補強に関する研究 その1 サイディング壁の耐力実験
- 黒石 純平 既存木造住宅の耐震補強に関する研究 その2 柱2つ割り筋かいの接合形式と壁耐力に関する実験
- 城倉 洋介 既存木造住宅の耐震補強に関する研究 その3 丸鋼筋かいによる補強壁の実験
- 湯本 俊介 既存木造住宅の耐震補強に関する研究 その4 制震ダンパー機能を持つ外付け鉄骨補強工法
- 佐藤 泰春・外山 直人
トラス構造高床式建物模型が生成する雪の吹きだまりに関する研究
- 中込 祐貴・中野 真吾
単体樹木の防風効果に関する基礎的研究
- 富石 卓也・研谷 貴史
遷移温度に注目した単純化構造モデルによる鋼構造柱梁接合部の破壊実験
—幾何学的不連続を有する試験片の単調載荷実験—
- 斉藤 亮・小中 孔明
遷移温度に注目した単純化構造モデルによる鋼構造柱梁接合部の破壊実験
—素材引張試験及び実大試験計画・力学的特性予測—



三橋博巳教授

- 五十嵐美保子 エキナカ商業施設が駅周辺に与える影響 —JR東日本のエキナカビジネスに着目して—
- 伊藤 貴啓 東京都における屋上緑化の現状に関する研究
- 岡田 光平 東京湾アクアラインが千葉県木更津市に与えた影響 —開通10年目での評価と今後について—
- 小澤 亮 新築マンション購入におけるConsumerGeneratedMediaの現状と課題
—利用実態から考察する今後のCGMのあり方—



- 川底 由佳 茨城県笠間市におけるグリーンツーリズムに関する研究 ー笠間クラインガルテンに着目してー
- 篠田 大輔 既存住宅（中古住宅）売買における検査制度の研究 ー米国のホームインスペクションを通してー
- 徳光 翔大 民設公園制度に関する研究 ー萩山地区を事例としてー
- 鳥海 裕子 空港のユニバーサルデザインに関する研究 ー空港をUD化する為の計画要素についてー
- 細野 恵美 NPOによる公の施設における管理運営の実態と在り方に関する研究
- 渡邊 明美 都市の緑地形成に向けての制御に関する研究 ー理想都市の制御関数と容積率緩和制度ー
- 池田 ふみ・東堂園泰江 戸建住宅団地における人と自然の共生するまちづくりに関する研究 ーマリナイースト21「碧浜」に着目してー

今村雅樹教授

- 岩井 友佑 ニュー青山北町アパートメント
豊かな緑の保存と生活に彩りを加える公共施設を付加した都営北町アパートメント立て替え計画
- 遠藤紗貴子 ショウテンガイノミチ ー商店街とコミュニティーセンターの融合における商店街再生の提案ー
- 小笠原順子 fu-chi 河川敷の住宅地 風致地区における住居空間の提案
- 岸 祐太 ワッフルハウス ー八王子セミナーハウス再計画ー
- 倉又 式子 修復美術館 絵画修復工房を中心にし配置した、新しい美術館のあり方の提案
- 福川 洋平 ARK ー芝浦・三田再開発計画ー
- 福永 雅美 奏でる線 渋谷における商業施設の新しい積層システムの提案と開放型建築の提案
- 古澤 修一 支え合うエリンギ ー歌舞伎町の猿猴環境に新しい暮らし方をする都心居住の提案ー
- 松岡 伸明 shimokitascene ー新規道路計画に伴う表裏一体型回遊建築の提案ー
- 松本 隆 ビル絞り ー渋谷における新しい風景を伴った商業ビルの提案ー
- 丸山 和哉 都市居住における地域活動拠点 ーvoidによる連続性ー



横河 健教授

- 相沢 真美 海想
- 秋月 孝文 線上のできごと
- 池田 琢 アキバケイ
- 居波 宏和 SCHOOL BOX
- 岩崎 慎 集合住宅における構成の反転によるオーバーラップ
- 川上 敏宏 Quarter Apartment
- 高橋 勇人 森のパーゴラ
- 土屋 敬祐 軒下の町
- 村上奈津子 Representasion ー都心における Junction Point 建築の提案ー
- 室谷 貴弘 PLATE-FORM



山崎誠子助教

- 石山未悠宇 ランドスケープに着目したこれからの住宅建築の窓のあり方についての研究
- 梅澤 智也 Parasite Green
- 重矢 浩志 ソトエ
- 菊池 景子 現代における縁側空間の意味と必要性
- 木村奈津子 日本大学をモデルとしたキャンパス外構部の現状から見る今後のキャンパスの在り方の研究
- 下田みゆき 都市部の小学校における学校緑化の方法についてー千代田区をモデルにした研究



原田早矢香 Green Renovation 一光が丘ニュータウン 地球に優しい緑の大規模修繕一
伊藤 一規 ヒトモクルマモ

佐藤光彦准教授



石ヶ谷望未 post SC
井上 峰一 森とカーテン
北川 健太 GROUNDATION Ohashi Re:Redevelopment project
佐藤 美里 コドモとハコとマワリミチ 一新しい幼保園のかたち一
橋 知左 Solid lane
檜垣 幸志 underground for plaza, plaza for underground 一丸ノ内駅前広場とそれに伴う地下街の設計一
三品 明美 CORRIDOR すべての生物のための通路
村上奈津子 都心における少人数制の小学校の設計 一港区旧飯倉小学校跡地を敷地として一
中川 知英 シゼンノチカラ 一エコミュージアムネットワークによる人・自然・時をつなぐ親水体験型の研究施設一
柳橋 啓一 雲と呼ばれた集落

山中新太郎助教



〈卒業研究〉

森 まりえ 都市の中の人々の居場所に関する研究
吉延 詳朋 店舗形態から考察した「郊外」に関する研究 国道16号線と日本橋から放射状にのびる道路を通じて

〈卒業設計〉

池上 豊 TOKYO CENTRAL CHURCH
小池 達也 脱層空間の提案 既存躯体を利用した都市の空き空間の使い方と価値観の提案
高橋 弘毅 FOR THE EART 地球環境問題を訴えかける建築
竹島 淳二 アーバン・パーク 永遠に続く居場所と多くの人がつくる風景
村上 真 Gakusei / Shuuraku
前坂 達男 図書館という名の記憶

本杉省三教授



〈卒業研究〉

阿由葉秀平 遊び場としての公園 一中野区の公園に何が必要か一
石川 亮太 公団・公社のコラボラティブハウスにおける住意識に関する研究
一ヴェルデ秋葉台・グリーンヴィレッジ宇津木台・ノナ由木坂を事例とした考察一

〈卒業設計〉

有川慎一郎 旧元町小学校及び元町公園保存・再生計画
岩田 敏幸 SERPENTINE SCHOOL 一港区芝浦港南人口増加地域における小学校の設計一
大西 健太 すみれ幼稚園の計画 一狭小敷地に対する新しい都市型幼稚園の提案一
栗山 直樹 「マチ」の集合住宅 一社会問題（少子化・高齢化）が起こすライフスタイル一
西郷 信彦 箱崎パーク&ライド 一東京シティアターミナルを利用したパーク&ライドの拠点施設の設計
柴多 悠 展開工場 一ごみ処理施設機能転用計画一
田村 圭祐 インタラクティブ・ホワイエ 一NHKホールの改修及びNHK公開施設の再構築一
寺山 靖彦 百年続くケアハウス 一老人福祉施設の拡張および変容一
吉田 直樹 常盤台図書館及び公民館・児童館立替計画 一行間を読む一

佐藤慎也助教

〈卒業研究〉

- 川村 希 住宅作品の「建ち方」に関する研究 一塚本由晴(アトリエ・ワン)の論文結果とアトリエ・ワンの住宅作品の比較一
- 中島 優 個人記念美術館展示室の平面計画に関する研究
- 水越 玲奈 画像を用いた測色調査による小学校の色彩計画に関する研究
- 渡邉梨恵子 アートプロジェクトにおける活動場所に関する研究 一取手アートプロジェクトを事例として一
- 〈卒業設計〉
- 青山 丈実 チカ道 一新橋駅地下通路計画一
- 岩井かおり DAIBA BILL ZOO 一積層動物園一
- 春日貴美子 Tokyo Art 一東京タワーフットタウン建て替え計画一
- 松井 八重 ガクセイノスマイ



渡辺富雄准教授

〈卒業研究〉

- 伊藤 佳子 図書館における児童コーナーの配置と内部機能の構成についての一考察 一足立区立図書館, 我孫子市民図書館, 千葉市中央図書館での事例調査を通して一
- 伊奈 亮人 学校施設における環境教育空間に関する研究 一東京都におけるエコスクールの事例調査一
- 井山 亮 利用特性から見た子育て支援施設の建築計画に関する研究 一利用者へのアンケートと観察調査を通して一
- 川口 悟司 東京都における廃校施設の再利用に関する研究 一4つの成功事例に学ぶ今後の廃校施設活用一
- 平田 美紀 イス座・ユカ座から見た現代住宅における居間空間に関する研究 一住み方観察調査を通して一
- 〈卒業設計〉
- 板敷 匠人 変える必要のない風景と変える必要のある性能 一減築システムによる団地再生一
- 田中 秀徳 Yokohama Silk Park 一横浜北仲地区帝蚕倉庫群の保存と再生一
- 森山 直樹 Work Style + 一働く環境を再考する一
- 茶屋原 梓 こどものいばしょ 一母と子どものドロップインセンター一



八藤後 猛専任講師

飯島 理絵・土屋 朋子

- 妊産婦と乳幼児のいる家族の避難生活に関する研究 一新潟県中越沖地震における避難生活実態と生活環境整備一
- 石井 香衣 集合住宅と高齢者居住施設の複合における建築計画に関する研究
- 井手 道章 現状からみる小規模多機能ホームの施設空間の計画に関する研究
- 岩澤 純礼 近年の大型商業施設の社会性に関する研究 一公共建築としての商業施設のあり方一
- 辻 紗矢香 認知症高齢者グループホームにおける座席配置から考察した建築計画に関する研究
- 平岡 舞 子どもの発達段階に適應したトイレ環境に関する研究
- 藤木 学 鉄道駅における情報系障害者の円滑な利用と安全性向上に関する研究



宇杉和夫准教授

- 須崎 とも 原風景を生かした子ども空間づくりに関する研究
- 為末 亘哉 月島の住居地区におけるスキマの現状と効果に関する研究
- 花積 直 ニュータウン開発における土地の歴史性の保存活用について 一成田ニュータウン一



- 濱名 修悟 都市における水路空間の再生・緑道化の研究 ―都市再生特別措置法を用いて―
- 樋口 太郎 埼玉会館・県立浦和図書館アーカイブデザインシステムの構築と提案
- 簗輪 敏明 高沼環境学習都市構想に向けて ―市街地における農業用水路の活用に関する研究―
- 山口 康平 ペDESTリアンデッキによって形成される街並みに関する研究
―街並み形成型駅周辺ペDESTリアンデッキについて―
- 吉森 英明 水都栃木市の水路環境再生に関する研究と提案
- 和田慎太郎 浦和地区における建築アーカイブ・プランニングシステムの構築 ―都市公園と県庁周辺環境再編成―
- 清水 麻未 江戸・東京における看板の歴史の変遷に関する研究

柳田 武専任講師

- 阿部 和徳 駅前広場における地域コミュニティの活性化 ―武蔵小山駅前再開発中心地区広場の提案―
- 池田 一樹 職業訓練施設を併設した養護学校（高等部・専攻科）の計画設計
- 車元えりか 我が国のスポーツ施設の現況と課題
- 下田 亮 建築CADシステムの歴史と可能性 ―コンピュータの歴史を通して―
- 成田 安志 都心における密集市街地の問題と対策
- 森 真二 戦後日本における大規模ニュータウンの現状と今後の展望
- 山口 拓哉 地方自治体におけるこれからの建築行政のありかた



片桐正夫教授・大川三雄准教授・重枝 豊准教授

〈アジア班〉

- 小柳 祈 クメール建築における基部の構成に関する一考察
―イースト・メボン、タ・ケウ、アンコール・ワットにおける基台と基壇の関係性について―
- 相馬千絵子 連続した窓の割付け方についての一考察 タ・ケオ寺院より廻廊の設計手法
- 曾原知加子 クメール寺院建築の伽藍構成に関する一考察
―10世紀から12世紀末寺院の軸線上からの中央祠堂の見え方を用いて―
- 中島 巴 12世紀前半のクメール寺院建築の楼門における平面計画に関する一考察
―Thommanon, Chau Say Tevoda, Banteay Samreの比較により―
- 宮沢 郁子 12世紀前末のクメール平地型寺院における開口部の設計計画に関する一考察
- 宮崎 光 クメール寺院における動線上に連なる2つの門の設計プランについて ―2つの門の差異と年代ごとの変遷―



〈日本班〉

- 荒井 一樹 建築家・広瀬謙二の鉄骨造住宅の持つ合理性と空間的特長に関する一考察
―SHシリーズにおける寸法計画と架構及び各部屋の配置の関係性について―
- 池田真理子 絵馬殿の配置と平面構成に関する基礎的研究
―現存する江戸期から昭和戦前期に造営された絵馬殿を中心として―
- 河合 晴香 懸造建築における平面計画と軸部に関する一考察 ―懸造部の柱による分析を中心として―
- 塚田めぐみ 慈光院における視覚的効果を意図したと見られる計画に関する一考察 書院の構成を中心として
- 千田真由美 江戸期の大規模寺院における内部空間の装飾構成に関する一考察
本願寺御影堂と知恩院御影堂の分析を中心として

〈近代班〉

- 石川 泰大 ル・コルビュジエの宗教建築にいたる建築手法の展開と変容に関する一考察
―ロンシャンの礼拝堂と「音響的形態」の再評価―
- 勝原 基貴 公教育における「建築」の表出に関する研究 ―学習指導要領及び社会科教科書の変遷を手がかりとして―
- 小池 薫子 黒川紀章の「代謝」における一考察 ―カプセルと中間領域の手法から―
- 佐藤 明生 明治大正期の歴史意識と保存理念

- 高橋 佳久 菊竹清訓の「場」に関する研究 —メイン空間から擁護的空間への変遷—
- 田中美希子 剣持勇にみるジャパニーズ・モダンの形成過程に関する考察
- 土屋 沙希 共働者の影響からみるA・レーモンド作品の傾向と特徴に関する一考察
—晩年の変化と総合者としての性格について—
- 中松 慎 構成と機能にみる和風玄関の変遷に関する一考察 —和風玄関の日本的な特性を探る—
- 久山 恵 東京における鉄道交通網の発展と駅舎の役割 —山手線駅舎にみる日本の駅舎建築の特徴と発展—
- 吉田 七瀬 住宅生産の工業化における建築家の思想
- 島田 佳織 近代建築黎明期における建築家の色彩観 —色彩の「象徴性」「機能性」「風土性」の枠組みから—
- 小倉 桂子 和風表現の抽象化の限界と具象表現の復興 —隈研吾の和風表現に関する考察—

小嶋勝衛教授・根上彰生教授・宇於崎勝也准教授・川島和彦専任講師—



新井 一平・河野翔一朗・櫻井 賢二

街路内のシーン景観における「閉鎖感」の測定手法に関する研究
—建築物高さと視点場から建築物までの距離に着目して—

磯貝 梨恵・遠藤 智史

商店街におけるピクトグラムの表示普及度に関する研究 —東京都内の商店街を対象として—

市村美奈子・上野美佳子・柳澤 優行

多様な主体の連携によるまちづくり活動の展開に関する研究
—栃木県栃木市における歴史的建造物を活かしたまちづくりを事例として—

岩瀬 弘樹・嶋嶋 隆・細木奈穂子

中国・北京市の歴史文化保護区における保護・整備の実態に関する研究 —旧城内30地区を対象として—

植田 雄太・岩木 伸次

観光モバイルサイトを活用した観光資源の情報提供に関する研究 —千代田区の観光資源に着目して—

宇賀神伸吉

防災まちづくりにおける自主防災活動組織の活動に関する研究
—国分寺市西町弁天町地区をケーススタディとして—

川越ももこ・新田さと子・山本 明果

都心商業地区における光害対策ガイドライン適用方策に関する研究

北山 社・山田 泰宏・渡邊 翼・葉山真都加

中国・上海市における都市開発に伴う商業機能の再編に関する研究
—軌道交通整備による駅周辺地域の再開発実態をとらえて—

佐藤 宣章・田中 賢祐・鶴岡 慶大

重要伝統的建造物群保存地区における観光誘致に関する研究
—岡山県倉敷市倉敷川畔と千葉県香取市佐原を事例として—

古川 隆一・結城 啓太・森田 健

集合住宅団地における持続可能なまちづくりに関する研究 —千葉県船橋市習志野台団地を事例として—

外間 祐二・前島 功・浜谷 祐毅

地域資源を活かしたまちづくり推進方策に関する研究 —船橋市本町通り地区を事例として—

升田 優太・宮崎 陽一・佐藤 拓也

中心市街地における大型店撤退後の対応策に関する研究 —改正中心市街地活性化法の運用開始に伴って—

武藤 祥太・山崎 正樹

既成市街地整備における用途地域変更と地区計画制度の運用に関する研究
—「誘導容積型地区計画制度」適用地区のモデルシミュレーションをとらえて—

平成19年度 短期大学部 卒業生一覧

赤井 英紀
赤木健志郎
秋山 達郎
浅沼友美子
浅野 智也
荒木 由衣
池上 裕喜
池上 隼
石山 雄介
伊藤 厚作
伊藤 良将
岩山 剛孟
氏家 正範
浦山 佳祐
王 釗
大阿久也実
大木 裕士
岡本 聖也
小野田直樹
鹿島 正弥
西澤 貴
鹿野 利充
川合 直紀

川崎絵里佳
川名 拓也
北 真義
北村 和久
小菅 健太
小林 晃司
小林 紀寛
小林 華子
佐々木貴史
佐藤 高
佐藤 達也
佐藤 尚子
柴田 弘樹
清水 香帆
志村 莉奈
白井 紘乃
菅沼 理美
周郷 雄太
鈴木 彩乃
鈴木 瑛二
鈴木 景太
住澤 亮
関 桂吾

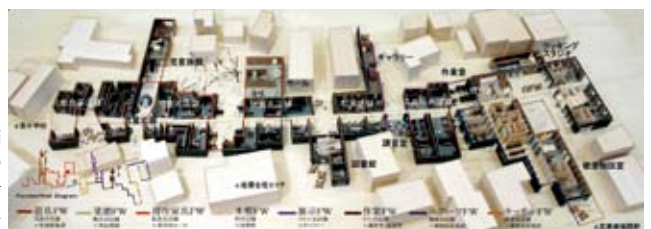
曾我 直喜
高橋百々子
高橋 雄樹
高見 翼
多田 早希
辻 邦彦
坪崎光司郎
寺田 直人
出合 愛美
豊崎 達也
仲間 美紀
中村 杏子
中村 隼
長島あかり
長谷麻由加
西明 高宏
西濱 萌
野本 圭祐
長谷川大介
花井 健太
早川 和也
針谷 未花
馬場 彩佳

樋口 直人
一木 拓太
福島慶一郎
保坂 裕梨
星川雄太郎
堀内 健太
増田 英器
松山 和嵩
光永 浩明
峯岸 祐輝
深山 茂朗
森 絵莉奈
谷島めぐみ
山内 翔太
山口 喬之
山口 達也
山野井麻衣
山室 恵美
山本 裕樹
笹倉 弘成
田中 智亮

吉田鉄郎賞 修士設計



旧鎌倉市街地の修景計画
—外部空間の分節・結合と配置形式からみた
個別建替えシステムの構築及び開放系住宅群の設計—
／石川直史



横浜市磯子浜マーケット再生計画
—地域生活延長型コミュニティ施設としての
自然発生的商店街の再構築—
／須賀博之

平成19年度 短期大学部 卒業生一覧

赤井 英紀
 赤木健志郎
 秋山 達郎
 浅沼友美子
 浅野 智也
 荒木 由衣
 池上 裕喜
 池上 隼
 石山 雄介
 伊藤 厚作
 伊藤 良将
 岩山 剛孟
 氏家 正範
 浦山 佳祐
 王 釗
 大阿久也実
 大木 裕士
 岡本 聖也
 小野田直樹
 鹿島 正弥
 西澤 貴
 鹿野 利充
 川合 直紀

川崎絵里佳
 川名 拓也
 北 真義
 北村 和久
 小菅 健太
 小林 晃司
 小林 紀寛
 小林 華子
 佐々木貴史
 佐藤 高
 佐藤 達也
 佐藤 尚子
 柴田 弘樹
 清水 香帆
 志村 莉奈
 白井 紘乃
 菅沼 理美
 周郷 雄太
 鈴木 彩乃
 鈴木 瑛二
 鈴木 景太
 住澤 亮
 関 桂吾

曾我 直喜
 高橋百々子
 高橋 雄樹
 高見 翼
 多田 早希
 辻 邦彦
 坪崎光司郎
 寺田 直人
 出合 愛美
 豊崎 達也
 仲間 美紀
 中村 杏子
 中村 隼
 長島あかり
 長谷麻由加
 西明 高宏
 西濱 萌
 野本 圭祐
 長谷川大介
 花井 健太
 早川 和也
 針谷 未花
 馬場 彩佳

樋口 直人
 一木 拓太
 福島慶一郎
 保坂 裕梨
 星川雄太郎
 堀内 健太
 増田 英器
 松山 和嵩
 光永 浩明
 峯岸 祐輝
 深山 茂朗
 森 絵莉奈
 谷島めぐみ
 山内 翔太
 山口 喬之
 山口 達也
 山野井麻衣
 山室 恵美
 山本 裕樹
 笹倉 弘成
 田中 智亮

吉田鉄郎賞 修士設計



旧鎌倉市街地の修景計画
 —外部空間の分節・結合と配置形式からみた
 個別建替えシステムの構築及び開放系住宅群の設計—
 /石川直史



横浜市磯子浜マーケット再生計画
 —地域生活延長型コミュニティ施設としての
 自然発生的商店街の再構築—
 /須賀博之

駿建賞 修士設計



「地域教育プラットフォーム構想」に対応した小学校の設計
—港区芝浦港南地区における幼保小連携への提案—
／漆間陽子

旧万世橋駅に立つ都市型ゴミ処理中継基地の設計
—NIMBY 建築のケーススタディー—
／加藤 暢



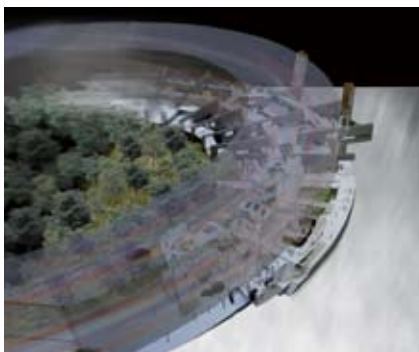
上野公園芸術文化
フォーラム
—東京都美術館を
活用した芸術文化
活動支援施設の設
計—
／朔 永吉



商店街と共存する
地域開放型中学校
の設計
—北区赤羽東地区
における岩淵中学
校建替え計画を通
して—
／前田有一



桜建賞 卒業設計



GROUNDATION
Ohashi Re:Redevelopment project
／北川健太

奨励賞 卒業設計

支え合うエリンギ
—歌舞伎町の猥雑環境に新しい暮らし方をする
都心居住の提案—
／古澤修一



新任教員紹介

宮里直也 先生 (助教・構造力学)



BDS 柏の杜



略歴

- 2003年 日本大学大学院理工学研究科建築学専攻
博士後期課程修了(斎藤・岡田研究室)
- 2003～04年 日本大学理工学部建築学科副手
- 2004～08年 構造計画プラス・ワン
- 2004～08年 日本大学理工学部建築学科非常勤講師

この春より、本学に籍を置くことになりました。実はとっても幸いなことに、1994年に学部へ入学して以来、博士課程や非常勤講師などを通して、建築学科とずっと接点をもててきました。地下鉄もまだなかった船橋キャンパス(当時は習志野校舎と呼ばれてました)で、2年生まで過ごしたのも昨日のことに感じます。たくさん思い出が詰まった母校で働けることは、本当に嬉しい限りです。

大学時代に建築、特にものづくりの楽しさを学びました。そして、この春まで勤めていた構造設計事務所では、大小いろいろな物件を通して、実際に建物をつくることの難しさや、その面白さ、建築分野の多様さを肌で感じ、また構造力学の奥の深さを痛感しました。

専門は構造力学ですが、分野を問わずに私がこれまで学んできたことや、ものづくりの楽しさ、構造力学の面白さと大切さなど、後輩にあたる皆さんに伝えていきたいと思っています。よろしくをお願いします。

(みやさとなおや)

梅田 綾 先生 (助手・設計講師室)



略歴

- 2003年 日本大学大学院理工学研究科建築学専攻
博士前期課程修了(本杉研究室)
- 2003～04年 シーラカンス アンド アソシエイツ
- 2004～06年 都立大学21世紀COEプログラム 4-Metセンター
- 2006～07年 メジロスタジオ
- 2007～08年 計画・設計工房

この春より、建築設計の助手をさせていただくことになりました。

大学、大学院の頃から今まで、さまざまな方々と出会い、さまざまな作品・物件をつくることに携わってきた中で、建築の楽しさ、奥深さと難しさ、そして人とのつながりの大切さを感じてきました。

今思えば、大学時代がその原点だったかと、改めて感じています。

学生の頃とは異なる新たな立場で、大学や先生方、学生の皆さんと関わっていくことは、今からとても楽しみです。新たな発見やつながりができると同時に、私も何かを伝えることができればいいなと思っています。

至らない点があるとは思いますが、よろしく申し上げます。

(うめだあや)

大塚文和 先生

(短大助教)
海洋建築概論, 環境評価総合演習)



略歴

- 1978年 東京商船大学商船学部航海学科卒業
- 1981年 東京商船大学大学院商船学研究所修了
- 1991年 日本大学大学院理工学研究科海洋建築工学専攻博士後期課程修了
- 1981~2005年 三洋テクノマリン(株)
- 2006年 三洋測量調査コンサルタント(株)

今春より、助教として建設学科に籍を置くことになりました大塚です。私は、25年近く海洋コンサル企業で建設コンサルあるいは環境コンサルなどの実務に関わってまいりました。本学との関わりは、社会人大学院生として博士後期課程に入学したことに始まり、学位取得後は卒論研究および修論研究などのアドバイザーとして関わるとともに、東京湾を主な対象として学生の皆さんとともに海洋環境に関わる研究を行ってまいりました。また、7年前からは、非常勤講師として海洋環境あるいは環境アセスメントなどの授業を担当してまいりました。

海洋基本法が昨年7月に施行され、我が国における海洋への取り組みも、新たな時代へと入っていくものと考えております。そのような中で、学生の皆さんとこれまで以上に密接な連携をもって、海洋環境に関わる研究を進めていければと考えております。よろしく願いいたします。(おつかふみかす)

星 和磨 先生

(短大助手)



略歴

- 2001年 日本大学大学院理工学研究科建築学専攻博士前期課程修了(木村研究室)
- 2001~02年 (株)アセント
- 2002~06年 日本大学短期大学部建設学科副手
- 2008年 日本大学大学院理工学研究科建築学専攻博士後期課程修了(関口研究室)

今春より、再び短期大学部建設学科に籍を置くことになりました。私は学生時代、さまざまな専門科目のうち、環境工学とりわけ音環境に興味をもちました。そして卒業研究では、教科書に載っていない未解決の問題を取り上げ、計画・実験・考察し、新たな知を得ようと考えたことの楽しさを知りました。そして卒業後9年経ちましたが、その興味は薄れるどころか増すばかりです。いろいろなことに興味をもち「なぜ」と思うこと、そして深く考え突き詰める楽しさを学生の皆さんに学んでほしいと思います。(ほしかずま)

研究室所在一覧

駿河台校舎

5号館

- 4 F 建築教室事務室(栗原・矢萩 543室)
- 5 F 設計講師室(長谷川・梅田 553室)
- 6 F 対震構造研究室
(石丸 564A室・古橋 564B室)
地盤基礎研究室
(安達 565A室・山田 565B室)
材料施工研究室(中田 566A室)
RC構造研究室
(白井 567A室・田嶋 567B室)
鋼構造研究室(半貫 568B室)
空間構造デザイン研究室(岡田 569B室・宮里 569A室・永井 568A室)
- 7 F 建築学科主任室(國吉 574A室)
建築史・建築論研究室(片桐 575B室・大川 576A室・重枝 575A室)
環境・情報研究室(関口 577A室)
環境・設備研究室
(早川 577B室・蜂巣 578A室)

環境・音響工学研究室 橋本研究室

(橋本 578B室)

建築音響研究室

(井上 579B室・富田 579A室)

8 F 計画系研究室

- 宇杉研究室(宇杉 584A室)
- 柳田研究室(柳田 584B室)
- 八藤後研究室(八藤後 585A室)
- 渡辺研究室(渡辺 585B室)
- 本杉研究室(本杉 586A室)
- 佐藤慎也研究室(佐藤(慎) 586B室)
- 設計系研究室

- 山崎研究室(山崎 587A室)
- 横河研究室(横河 587B室)
- 佐藤光彦研究室(佐藤(光) 588A室)
- 山中研究室(山中 588B室)
- 今村研究室(今村 589B室)

- 9 F 都市計画研究室(小嶋 594A室・根上 595A室・宇崎崎 595B室・川島 594B室)
- 防災科学研究室(三橋 596A室)

船橋校舎

5号館

- 4 F 吉野研究室(吉野 545A室)
- 大塚研究室(大塚 545A室)
- 田所研究室(田所 545B室)
- 矢代研究室(矢代 546A室)
- 小石川研究室(小石川・高田 546B室)

6号館

- 2 F 環境情報研究室(羽入 622A室)

9号館

- 1 F (短)建設事務室(星 915室)
- 2 F 黒木研究室(黒木 921B室)
- 酒匂研究室(酒匂 926A室)
- 内藤研究室(内藤 926B室)
- 下村研究室(下村 926C室)

大塚文和 先生

(短大助教)
海洋建築概論, 環境評価総合演習)



略歴

- 1978年 東京商船大学商船学部航海学科卒業
- 1981年 東京商船大学大学院商船学研究所修了
- 1991年 日本大学大学院理工学研究科海洋建築工学専攻博士後期課程修了
- 1981~2005年 三洋テクノマリン(株)
- 2006年 三洋測量調査コンサルタント(株)

今春より、助教として建設学科に籍を置くことになりました大塚です。私は、25年近く海洋コンサル企業で建設コンサルあるいは環境コンサルなどの実務に関わってまいりました。本学との関わりは、社会人大学院生として博士後期課程に入学したことに始まり、学位取得後は卒論研究および修論研究などのアドバイザーとして関わるとともに、東京湾を主な対象として学生の皆さんとともに海洋環境に関わる研究を行ってまいりました。また、7年前からは、非常勤講師として海洋環境あるいは環境アセスメントなどの授業を担当してまいりました。

海洋基本法が昨年7月に施行され、我が国における海洋への取り組みも、新たな時代へと入っていくものと考えております。そのような中で、学生の皆さんとこれまで以上に密接な連携をもって、海洋環境に関わる研究を進めていければと考えております。よろしく願いいたします。(おつかふみかす)

星 和磨 先生

(短大助手)



略歴

- 2001年 日本大学大学院理工学研究科建築学専攻博士前期課程修了(木村研究室)
- 2001~02年 (株)アセント
- 2002~06年 日本大学短期大学部建設学科副手
- 2008年 日本大学大学院理工学研究科建築学専攻博士後期課程修了(関口研究室)

今春より、再び短期大学部建設学科に籍を置くことになりました。私は学生時代、さまざまな専門科目のうち、環境工学とりわけ音環境に興味をもちました。そして卒業研究では、教科書に載っていない未解決の問題を取り上げ、計画・実験・考察し、新たな知を得ようと考えたことの楽しさを知りました。そして卒業後9年経ちましたが、その興味は薄れるどころか増すばかりです。いろいろなことに興味をもち「なぜ」と思うこと、そして深く考え突き詰める楽しさを学生の皆さんに学んでほしいと思います。(ほしかずま)

研究室所在一覧

駿河台校舎

5号館

- 4 F 建築教室事務室(栗原・矢萩 543室)
- 5 F 設計講師室(長谷川・梅田 553室)
- 6 F 対震構造研究室
(石丸 564A室・古橋 564B室)
地盤基礎研究室
(安達 565A室・山田 565B室)
材料施工研究室(中田 566A室)
RC構造研究室
(白井 567A室・田嶋 567B室)
鋼構造研究室(半貫 568B室)
空間構造デザイン研究室(岡田 569B室・宮里 569A室・永井 568A室)
- 7 F 建築学科主任室(國吉 574A室)
建築史・建築論研究室(片桐 575B室・大川 576A室・重枝 575A室)
環境・情報研究室(関口 577A室)
環境・設備研究室
(早川 577B室・蜂巣 578A室)

環境・音響工学研究室 橋本研究室

(橋本 578B室)

建築音響研究室

(井上 579B室・富田 579A室)

8 F 計画系研究室

- 宇杉研究室(宇杉 584A室)
- 柳田研究室(柳田 584B室)
- 八藤後研究室(八藤後 585A室)
- 渡辺研究室(渡辺 585B室)
- 本杉研究室(本杉 586A室)
- 佐藤慎也研究室(佐藤(慎) 586B室)
- 設計系研究室

- 山崎研究室(山崎 587A室)
- 横河研究室(横河 587B室)
- 佐藤光彦研究室(佐藤(光) 588A室)
- 山中研究室(山中 588B室)
- 今村研究室(今村 589B室)

- 9 F 都市計画研究室(小嶋 594A室・根上 595A室・宇崎崎 595B室・川島 594B室)
- 防災科学研究室(三橋 596A室)

船橋校舎

5号館

- 4 F 吉野研究室(吉野 545A室)
- 大塚研究室(大塚 545A室)
- 田所研究室(田所 545B室)
- 矢代研究室(矢代 546A室)
- 小石川研究室(小石川・高田 546B室)

6号館

- 2 F 環境情報研究室(羽入 622A室)

9号館

- 1 F (短)建設事務室(星 915室)
- 2 F 黒木研究室(黒木 921B室)
- 酒匂研究室(酒匂 926A室)
- 内藤研究室(内藤 926B室)
- 下村研究室(下村 926C室)

■吾守尔齐娜古力氏（'07年度不動産修了）、小嶋勝衛教授、根上彰生教授、宇於嶋勝也准教授、川島和彦専任講師、後藤将人君（不動産M2）共著の原著論文「中国・ウルムチ市における伝統的景観を活かしたまちづくりに関する研究 ―「二道橋民族風情一条街城市設計」計画を事例として―」が、日本不動産学会誌No.82（2008年1月）に掲載された。

■富田隆太助手、井上勝夫教授、川又周太氏（'02年度修了）共著の技術報告「住宅内の転倒時を想定した直張り木質フローリング床の頭部衝撃緩衝効果に関する検討」が、日本建築学会技術報告集第26号（2007年12月）に掲載された。

■矢代真己短大准教授の著書「カリスマ建築家偉人伝：20世紀を動かした12人」（彰国社）が刊行された。

■山中新太郎助教、ヨコミソマコト氏（aat+ヨコミソマコト建築設計事務所主宰）、小野田泰明氏（東北大学教授）によるヨコミソ・山中・小野田共同設計企業体が、「宇土市立宇土小学校プロポーザル」の二次審査5名に選出された。熊本県宇土市の2つの小学校改築に対する提案が求められ、66点の応募から選ばれた。

■濱名修悟君、和田慎太郎君（宇杉研'07年度卒業）、安達幸江さん（'06年度卒業）の「府中田園エココミュニティ ― 一国府と用水路への回帰―」が、「府中インターユニバーシティ2007特別賞 府中建築文化フォーラム賞」（主催：府中建築文

教室ぶろむなード

化フォーラム）を受賞した。多摩地域・東京西部の大学間連携プログラムとして9大学32作品の展示が行われ、市民・専門家投票の結果、第1位に選ばれた。

■平成19年度の卒業式が3月25日に挙行された。卒業生・修了生は、建築学科298名、大学院建築学専攻博士前期課程61名、同後期課程1名、同不動産科学専攻博士前期課程5名、同後期課程1名、短大建設学科89名であった。

■斎藤公男教授、小久保彰助手、末岡佐江子助手、吉見佳代子助手が3月31日をもって退職された。また、森田吉晃短大准教授が3月20日をもって退職された。永い間ありがとうございました。

■4月1日付の人事で、大川三雄准教授が教授に、田嶋和樹助手が助教に、富田隆太助手が助教に、黒木二三夫短大准教授が教授に、酒匂教明短大助手が専任講師に昇格された。

■4月1日付で新しく建築学科のメンバーになったのは、宮里直也助教、梅田綾助手、國吉葉苗助手、永井佑季助手の4名である。

■4月1日付で新しく短大建設学科のメンバーになったのは、大塚文和助教、星和磨助手の2名である。

■建築学科、大学院建築学専攻の非常勤講師の新旧交代は以下の通り（敬称略）。〈新任〉

石黒 由紀（建築設計Ⅴ，
デザインワークショップⅡ）

伊藤 朱子（デザイン基礎、建築設計Ⅰ）

関本 竜太（デザイン基礎、建築設計Ⅰ）

竹田 智志（民法Ⅰ，Ⅱ）

納谷 学（建築設計Ⅲ，Ⅳ，
デザインワークショップⅡ）

飛田 幸作（デザイン基礎）

廣田 裕二（鑑定評価理論Ⅰ，Ⅱ）

前田 紀貞（建築設計Ⅱ，Ⅴ，
デザインワークショップⅡ）

水野 吉樹（建築設計Ⅲ，Ⅳ，設計演習Ⅰ）

矢口 和宏（経済学特論Ⅰ，Ⅱ）

柳沢 力（建築設計Ⅲ，設計演習Ⅱ）

〈退任〉

宇賀神 弦（デザイン基礎、建築設計Ⅰ）

桑原 立郎（建築設計Ⅴ，Ⅵ，設計演習Ⅱ，
デザインワークショップⅠ）

近藤 康弘（建築設計Ⅳ）

設楽 浩吉（民法Ⅰ，Ⅱ）

平舘 勝紘（鑑定評価理論Ⅰ，Ⅱ）

田中 雅美（建築設計Ⅲ，Ⅳ）

手塚 義明（建築設計Ⅰ，Ⅵ，設計演習Ⅱ，
デザインワークショップⅠ）

野沢 正光（建築デザインⅡ，
サステナブルデザイン特論）

丸尾 直美（経済学特論Ⅰ，Ⅱ）

安田 博道（建築設計Ⅲ，Ⅵ，設計演習Ⅱ）

蔭内 博史（建築設計Ⅳ，Ⅴ）

■短大建設学科の非常勤講師の新旧交代は以下の通り（敬称略）。

〈新任〉

高安 重一（ベーシック建築デザイン，
建築デザインⅠ）

〈退任〉

植木 健一（デザイン基礎、建築設計Ⅰ）

小松 清路（建築設計Ⅱ，Ⅲ）



宇土市立宇土小学校プロポーザル案

駿建目次

2008年4月号 Vol.36 No.1 通巻148号

表紙「ファラデーホール（プラザ習志野）」
設計：日本大学理工学部理工学研究所・習志
野校舎食堂棟建設委員会ワーキング・
グループ
撮影：坂口裕康

大学の評価は卒業生の実力	2	平成19年度 博士論文 修士論文・設計 タイトル一覧	24
平成20年度 建築学科 履修要項	3	平成19年度 卒業研究・設計 タイトル一覧	27
建築学科 専門科目使用教科書並びに参考書	11	平成19年度 短期大学部 卒業生一覧	36
平成20年度 短期大学部建設学科 履修要項	14	平成19年度 各賞受賞作品	36
短期大学部建設学科 専門科目使用教科書並びに参考書	16	新任教員紹介	38
イギリスとドイツの地域施設・研究所を訪ねて	18	研究室所在一覧	39
ヴァナキュラー建築からのメッセージ	20	教室ぶろむなード	40
平成19年度 各賞受賞者一覧	22		